

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年6月19日
【事業年度】	第39期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
【会社名】	株式会社ユー・エス・エス
【英訳名】	USS Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 安藤 之弘
【本店の所在の場所】	愛知県東海市新宝町507番地の20
【電話番号】	052(689)1129
【事務連絡者氏名】	取締役副社長統括本部長 山中 雅文
【最寄りの連絡場所】	愛知県東海市新宝町507番地の20
【電話番号】	052(689)1129
【事務連絡者氏名】	取締役副社長統括本部長 山中 雅文
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （愛知県名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	67,466	68,607	67,179	75,153	79,908
経常利益 (百万円)	34,027	35,218	32,999	36,676	38,039
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	21,661	22,477	22,909	24,285	25,543
包括利益 (百万円)	21,454	22,473	22,895	25,132	25,848
純資産額 (百万円)	144,039	155,183	159,197	172,190	183,535
総資産額 (百万円)	174,106	186,831	197,374	222,292	232,703
1株当たり純資産額 (円)	553.44	597.16	622.21	672.03	717.96
1株当たり当期純利益金額 (円)	83.79	86.92	90.02	95.59	100.54
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	83.64	86.76	89.87	95.42	100.35
自己資本比率 (%)	82.2	82.5	80.1	76.8	78.1
自己資本利益率 (%)	15.8	15.1	14.7	14.8	14.5
株価収益率 (倍)	24.79	20.68	20.61	22.48	20.42
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	24,287	26,030	28,882	32,505	32,894
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	19,724	5,694	4,823	34,498	1,496
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	9,718	12,427	13,550	12,162	19,668
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	29,462	37,370	47,878	33,722	45,452
従業員数 (名)	1,085	1,047	1,032	1,157	1,115
(外、平均臨時雇用者数)	(240)	(205)	(188)	(212)	(180)

(注) 1. 売上高には、消費税等を含めておりません。

2. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	46,047	47,785	52,031	54,087	56,909
経常利益 (百万円)	31,876	32,449	32,587	34,264	36,854
当期純利益 (百万円)	22,042	23,303	25,794	23,843	25,669
資本金 (百万円)	18,881	18,881	18,881	18,881	18,881
発行済株式総数 (株)	313,250,000	313,250,000	313,250,000	313,250,000	313,250,000
純資産額 (百万円)	137,803	149,755	156,555	168,910	180,036
総資産額 (百万円)	164,167	178,814	189,721	204,043	217,528
1株当たり純資産額 (円)	531.90	579.09	615.20	663.29	709.72
1株当たり配当額 (円)	37.70	40.80	46.40	47.80	50.40
(内1株当たり中間配当額) (円)	(18.50)	(20.40)	(23.20)	(23.50)	(24.60)
1株当たり当期純利益金額 (円)	85.27	90.11	101.36	93.85	101.04
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	85.11	89.95	101.18	93.68	100.84
自己資本比率 (%)	83.8	83.6	82.4	82.6	82.6
自己資本利益率 (%)	16.8	16.2	16.9	14.7	14.7
株価収益率 (倍)	24.36	19.95	18.31	22.90	20.32
配当性向 (%)	44.3	45.3	45.8	51.0	49.8
従業員数 (名)	555	540	583	580	572
(外、平均臨時雇用者数)	(134)	(122)	(119)	(114)	(109)
株主総利回り (%)	146.0	129.5	136.7	160.3	157.1
(比較指標: 配当込みT O P I X) (%)	(130.7)	(116.5)	(133.7)	(154.9)	(147.1)
最高株価 (円)	2,204	2,579	2,075	2,563	2,390
最低株価 (円)	1,421	1,456	1,508	1,858	1,700

(注) 1. 売上高には、消費税等を含めておりません。

2. 最高株価および最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当事業年度の期首から適用しており、前事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## 2【沿革】

当社（合併前商号セイシン産業株式会社1969年11月13日設立、本店所在地愛知県豊明市、株式の額面金額500円）は、株式会社ユー・エス・エス（1980年10月29日設立、本店所在地愛知県東海市、株式の額面金額10,000円）の株式の額面金額を変更するため、1997年4月1日を合併期日として、同社を吸収合併し、同社の資産、負債および権利義務の一切を引き継ぎ、同日をもって商号を株式会社ユー・エス・エスに変更するとともに、合併後本店を愛知県東海市に移転いたしました。合併前の当社は休業状態にあり、合併後において被合併会社の営業活動を全面的に継承いたしました。

したがって、実質上の存続会社は、被合併会社である株式会社ユー・エス・エス（愛知県東海市）でありますので、以下の記載事項につきましては、特段の記述がない限り、合併前日までは実質上の存続会社について記載しております。

年月	事業内容
1980年10月	愛知自動車総合サービス株式会社設立
1982年8月	U S S名古屋会場を愛知県東海市に開設
1982年10月	U S S名古屋会場にポスコンピュータシステムを導入
1989年7月	株式会社ユー・エス・エス九州設立
1990年1月	U S S九州会場を佐賀県鳥栖市に開設（株式会社ユー・エス・エス九州運営）
1991年12月	株式会社ユー・エス・エス静岡設立
1993年11月	株式会社ユー・エス・エス東京設立
1994年5月	U S S東京会場を千葉県野田市に開設（株式会社ユー・エス・エス東京運営） 株式会社ユー・エス・エス・ジャパン設立
1994年11月	U S S九州ゴールド会場を佐賀県鳥栖市に開設（株式会社ユー・エス・エス九州運営） 既設U S S九州会場をU S S九州ファースト会場に改称
1994年12月	株式会社ユー・エス物流設立
1995年3月	株式会社ユー・エス・エス九州を吸収合併 愛知自動車総合サービス株式会社から商号を株式会社ユー・エス・エスに変更
1995年7月	衛星TVオートオークション開始（株式会社ユー・エス・エス・ジャパン運営）
1995年10月	株式会社ユー・エス・エス静岡を子会社化 株式会社ユー・エス・エス岡山設立
1996年1月	株式会社ユー・エス・エス東京を吸収合併
1996年2月	株式会社ユー・エス・エス・ジャパンを子会社化
1996年4月	U S S名古屋会場を愛知県東海市へ新築移転、同時2レーン・セリ・システムを導入
1996年7月	U S S岡山会場を岡山県赤磐郡山陽町（現赤磐市）に開設（株式会社ユー・エス・エス岡山運営）
1996年10月	U S S東京会場に全車映像・完全同時2レーン・セリ・システムを導入
1996年11月	U S S静岡会場を静岡県袋井市に開設（株式会社ユー・エス・エス静岡運営）
1997年6月	株式会社ユー・エス・エス札幌設立
1998年3月	U S S札幌会場を北海道江別市に開設（株式会社ユー・エス・エス札幌運営） 株式会社ユー・エス・エス静岡から営業を譲受け、同社を解散
1998年10月	オートオークションを運営する株式会社オートオークション東京を子会社化し、商号を株式会社ユー・エス・エス東京みずほに変更するとともに、会場名をU S S西東京会場に改称
1999年1月	U S S東京会場に同時4レーン・セリ・システムを導入
1999年9月	名古屋証券取引所市場第2部に株式を上場 オートオークションを運営する藤岡オートオークション株式会社を子会社化し、商号を株式会社ユー・エス・エス群馬に変更するとともに、会場名をU S S群馬会場に改称
1999年11月	株式会社ユー・エス・エス・カーバンクネット設立
2000年4月	オートオークションを運営するサークルオートオークション東北株式会社を完全子会社化し、商号を株式会社ユー・エス・エス東北に変更するとともに、会場名をU S S東北会場に改称
2000年12月	東京証券取引所市場第1部に株式を上場、名古屋証券取引所市場第1部指定
2001年1月	U S S東北会場を宮城県柴田郡村田町へ新築移転
2001年7月	株式会社ユー・エス・エス大阪設立
2001年10月	株式会社ユー・エス・エス・カーバンクネットが株式会社ラビットジャパンを吸収合併
2001年11月	U S S大阪会場を大阪市西淀川区に開設（株式会社ユー・エス・エス大阪運営）

年月	事業内容
2002年1月	株式会社ユー・エス・エス・ジャパンを吸収合併
2002年4月	株式会社ユー・エス・エス横浜設立 株式会社ユー・エス・エス・カーバンクネットの商号を株式会社カークエストに変更
2002年10月	株式会社ワールドコミュニケーションズを子会社化
2003年3月	U S S福岡会場を福岡県筑紫野市に開設(株式会社ジェイ・イー・エー九州から営業を譲受け)
2003年6月	株式会社ワールドコミュニケーションズの商号を株式会社ワールド自動車に変更
2003年12月	株式会社U S Sリサイクルオートオークション設立 株式会社アビゾ設立
2004年2月	U S S横浜会場を横浜市鶴見区に開設(株式会社ユー・エス・エス横浜運営)
2004年6月	U S S - R名古屋会場を名古屋市港区に開設(株式会社U S Sリサイクルオートオークション運営) 株式会社アビゾのリサイクル工場が名古屋市港区で稼働
2004年9月	株式会社U S S神戸設立
2004年10月	U S S東京会場を千葉県野田市へ新築移転
2005年2月	株式会社アールイーエィを完全子会社化、同社子会社でオートオークションを運営する流通オートオークション株式会社の商号を株式会社U S S流通オートオークションに変更するとともに、会場名をU S S流通会場に改称
2005年4月	ミサワ東洋株式会社を完全子会社化
2005年5月	U S S - R東京会場を千葉県野田市(旧東京会場)に開設 ミサワ東洋株式会社の商号を株式会社U S S東洋に変更
2005年9月	株式会社ユー・エス・エス群馬を完全子会社化 U S S神戸会場を神戸市中央区に開設(株式会社U S S神戸運営)
2005年10月	株式会社アールイーエィが、同社子会社の株式会社U S S流通オートオークションを吸収合併し、商号を株式会社U S S流通オートオークションへ変更
2006年1月	U S S九州ゴールド会場を新築建替するとともにU S S九州会場に改称 U S S名古屋会場に同時6レーン・セリ・システムを導入
2006年3月	株式会社U S Sサポートサービス設立
2006年10月	株式会社U S Sリサイクルオートオークションを吸収合併 株式会社U S S新潟設立
2007年3月	株式会社U S S神戸が株式会社ユー・エス・エス大阪を吸収合併し、商号を株式会社U S S関西に変更 オートオークションを運営する株式会社ケーユーエィ北陸を完全子会社化し、商号を株式会社U S S北陸に変更するとともに、会場名をU S S北陸会場に改称
2007年4月	U S S - R東京会場を東京会場へ統合 オートオークションを運営する株式会社藤岡インター・オートオークションを子会社化し、商号を株式会社U S S藤岡に変更するとともに、会場名をU S S藤岡会場に改称 U S S新潟会場を新潟県見附市に開設(株式会社U S S新潟運営)
2007年10月	株式会社カークエストおよび株式会社ワールド自動車を完全子会社化
2008年1月	U S S東京会場で同時10レーン・セリ・システムを導入
2008年4月	株式会社ワールド自動車が株式会社カークエストの中古自動車買取販売事業を吸収分割により承継し、商号を株式会社R & Wに変更 株式会社ユー・エス・エス東京みずほを完全子会社化
2008年5月	株式会社U S S流通オートオークションを千葉県野田市(旧U S S - R東京会場跡地)へ移転
2009年1月	鹿児島サイト(出品車両受付ストックヤード)を鹿児島県鹿児島市に開設
2009年3月	株式会社ユー・エス・エス東京みずほを埼玉県入間市へ移転し、商号を株式会社U S S埼玉に変更するとともに、会場名をU S S埼玉会場に改称
2009年11月	株式会社U S S藤岡が株式会社ユー・エス・エス群馬を吸収合併し、商号を株式会社U S S群馬に変更
2010年1月	U S S藤岡会場をU S S群馬会場に統合
2010年4月	株式会社U S S埼玉が株式会社U S S流通オートオークションを吸収合併し、商号を株式会社U S S関東に変更
2010年9月	U S S四国会場を愛媛県松山市に開設(株式会社ユー・エス・エス岡山運営)
2010年10月	株式会社U S S関東を吸収合併

年月	事業内容
2011年2月	株式会社USSロジスティクス・インターナショナル・サービス設立
2011年3月	株式会社アイケイコーポレーション（現株式会社バイク王&カンパニー）および株式会社ジャパンバイクオークションとバイクオークション事業に関する業務・資本提携について基本合意を締結
2011年7月	USS流通会場をUSS東京会場に統合 株式会社ユー・エス・エス横浜および株式会社USS関西を吸収合併
2011年10月	株式会社USS群馬が株式会社USS新潟を吸収合併し、商号を株式会社USS関越に変更
2011年11月	USS神戸会場にてバイクオークションを開始（株式会社ジャパンバイクオークション運営）
2012年2月	株式会社USS東洋が株式会社カークエストを吸収合併し、商号を株式会社カークエストに変更
2012年5月	USS横浜会場にてバイクオークションを開始（株式会社ジャパンバイクオークション運営）
2012年10月	株式会社ユー・エス・エス札幌、株式会社ユー・エス・エス東北、株式会社USS北陸、株式会社ユー・エス・エス岡山および株式会社USS関越を吸収合併
2013年5月	株式会社USSロジスティクス・インターナショナル・サービスを完全子会社化
2013年8月	USS名古屋会場を新築建替
2014年7月	株式会社R&Wが同社を分割会社、株式会社ラビット・カーネットワークを新設会社とする新設分割を実施
2014年8月	USS岡山会場を新築移転
2015年1月	株式会社R&Wの商号を株式会社リプロワールドに変更
2015年10月	株式会社カークエストの廃ゴムのリサイクル事業を会社分割し、株式会社東洋ゴムチップを設立
2015年11月	株式会社ジャパンバイクオークションの出資比率を66.2%に引き上げ子会社化
2015年12月	株式会社東洋ゴムチップの全株式を資源リサイクル事業大手の株式会社エンピプロ・ホールディングスへ譲渡
2016年4月	株式会社カークエストを吸収合併
2016年5月	USS静岡会場を新築建替
2016年7月	USS-R名古屋会場を愛知県東海市に新築移転
2017年2月	USS東京会場で同時12レーン・セリ・システムを導入
2017年5月	USS札幌会場を新築建替
2017年8月	株式会社ジェイ・イー・エーの株式66.0%を取得し子会社化
2017年10月	USS北陸会場を石川県白山市に新築移転
2018年3月	株式会社ジェイ・イー・エーを完全子会社化
2019年3月	株式会社ジェイ・イー・エーが株式会社オークション・トランスポートを吸収合併

### 3【事業の内容】

U S S グループは、当社、子会社 9 社および関連会社 3 社で構成されており、オートオークションを中心に事業を行っております。その主な事業内容および当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次の通りであります。

なお、これらはセグメントの区分と同一であります。

#### オートオークション（当社を含む 8 社）

当社および連結子会社である株式会社ジェイ・イー・イーおよび株式会社 H A A 神戸は、中古自動車取扱事業者を会員とするオートオークションを運営しております。また、当社は衛星 T V 回線およびインターネットを通じたオートオークション接続サービスならびに中古自動車情報サービスを行っております。連結子会社である株式会社ユー・エス物流は、オートオークションの出品車・落札車の陸送取次および出品車引廻しを行っております。連結子会社である株式会社 U S S サポートサービスは、オートオークション会員向けに金融サービス等を行っております。連結子会社である株式会社ジャパンバイクオークションは、中古二輪車取扱事業者を会員とするバイクオークションを運営しております。

関連会社である PT.JBA Indonesia は、インドネシア国内において中古二輪車取扱事業者を会員とするバイクオークション等を運営しております。なお、当社の連結子会社である株式会社ジャパンバイクオークションが保有する PT.JBA Indonesia の株式の一部を 2019 年 2 月 15 日付けで譲渡した結果、同社に対する議決権比率が 33.4% となったため、同社を非連結子会社から関連会社としております。

関連会社である S B I オートサポート株式会社は、オートローン事業を行っております。

当社の連結子会社であった株式会社オークション・トランスポートは、2019 年 3 月 1 日付けで当社の連結子会社である株式会社ジェイ・イー・イーを存続会社とする吸収合併により消滅しております。

また、関連会社であった株式会社インフォキャリアは、2019 年 3 月 25 日付けで会社清算しております。

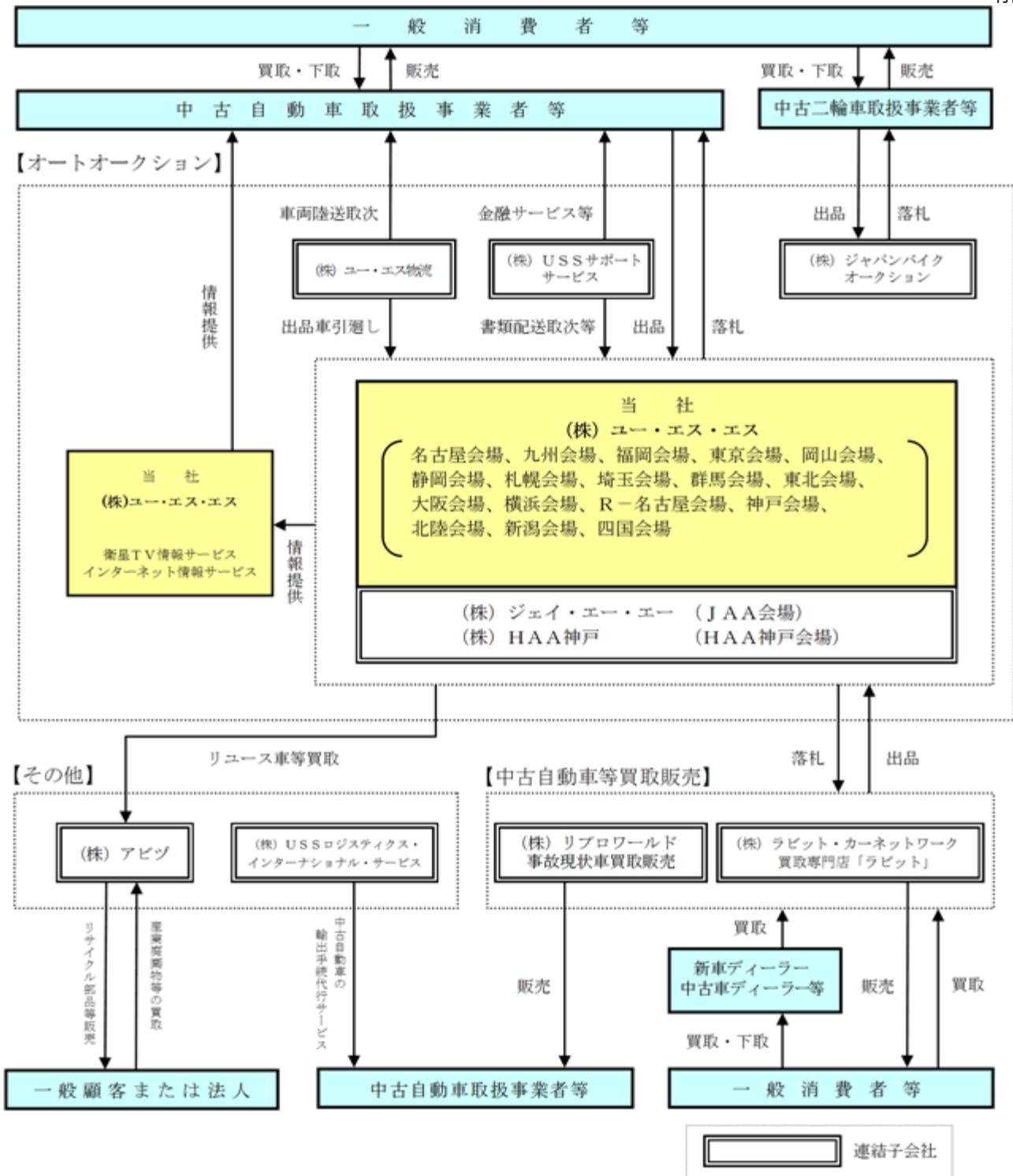
#### 中古自動車等買取販売（2 社）

連結子会社である株式会社ラビット・カーネットワークは、中古自動車の買取販売事業を、連結子会社である株式会社リプロワールドは、事故現状車の買取販売事業を行っております。

#### その他（当社を含む 4 社）

連結子会社である株式会社アビツは、廃自動車等のリサイクル事業を行っております。連結子会社である株式会社 U S S ロジスティクス・インターナショナル・サービスは、中古自動車の輸出手続代行サービスを行っております。その他、当社は太陽光発電システムによる売電事業およびレンタカー事業を行っております。

関連会社である株式会社プラ 2 プラは、再生プラスチックの生産および販売事業を行っております。



(注) 1. 上記には重要性の乏しい以下の事業は記載しておりません。

- ・当社が行う売電事業およびレンタカー事業
- ・関連会社であるPT. JBA Indonesia、株式会社プラ2 プラおよびS B I オートサポート株式会社
- 2. 連結子会社であった株式会社オークション・トランスポートは、2019年3月1日付けで当社の連結子会社である株式会社ジェイ・エー・エーを存続会社とする吸収合併により消滅しております。
- 3. 関連会社であった株式会社インフォキャリアーは、2019年3月25日付けで会社清算しております。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主な事業内容	議決権に対する提出会社の所有割合			関係内容			
				直接所有	間接所有	合計	役員の兼任	資金取引	営業上の取引	設備の賃貸借
							当社役員			
(連結子会社)		百万円		%	%	%	名	百万円		
株式会社 ユー・エス物流	愛知県 東海市	30	貨物自動車陸送 サービス	100	-	100	3	-	出品車両の引 廻し手数料の 支払等	建物
株式会社USS サポートサービス	愛知県 東海市	45	金融サービス	100	-	100	3	貸付金 1,400	書類配送にか かる取次手数 料等	-
株式会社 リプロワールド	千葉県 野田市	63	事故現状車の買取 販売	100	-	100	2	貸付金 100	出品車両にか かる手数料等	土地建物 構築物
株式会社ラビット・ カーネットワーク	東京都 千代田区	50	中古自動車の買取 販売	100	-	100	2	-	出品車両にか かる手数料等	-
株式会社アビツ	愛知県 名古屋市 港区	270	廃自動車等のリサ イクル	51	-	51	3	-	廃自動車の売 上等	-
株式会社USSロジス ティクス・インターナ ショナル・サービス	神奈川県 横浜市 鶴見区	50	中古自動車の輸出 手続代行サービス	100	-	100	4	-	-	土地建物 構築物
株式会社ジャパン バイクオークション	神奈川県 横浜市 鶴見区	212	バイクオークショ ン運営	66	-	66	3	-	-	土地建物 構築物
株式会社 ジェイ・エー・エー	東京都 江戸川区	100	オートオークショ ン運営	100	-	100	4	-	衛星TVおよ びインター ネット情報 サービスにか かる手数料等	-
株式会社HAA神戸	兵庫県 神戸市 中央区	480	オートオークショ ン運営	-	100	100	5	-	衛星TVおよ びインター ネット情報 サービスにか かる手数料等	-

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

(2019年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(名)
オートオークション	769 (130)
中古自動車等買取販売	181 (6)
その他	144 (42)
全社(共通)	21 (2)
合計	1,115 (180)

- (注) 1. 従業員数は、就業員数(US Sグループ外からUS Sグループへの出向者を含み、US SグループからUS Sグループ外への出向者を除く。)であり、臨時雇用者数(嘱託社員、契約社員、パートタイマーおよび派遣社員を含む。)は当連結会計年度の平均人員(1日7時間30分勤務換算)を( )内に外数で記載しております。
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

(2019年3月31日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
572 (109)	39.3	12.6	6,478

セグメントの名称	従業員数(名)
オートオークション	551 (107)
全社(共通)	21 (2)
合計	572 (109)

- (注) 1. 従業員数は、就業員数(社外から当社への出向者を含み、当社から社外への出向者を除く。)であり、臨時雇用者数(嘱託社員、契約社員、パートタイマーおよび派遣社員を含む。)は当事業年度の平均人員(1日7時間30分勤務換算)を( )内に外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与および基準外給与を含めております。
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。
4. 平均勤続年数および平均年間給与は、社外から当社への出向者および当社から社外への出向者を除いております。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係はグループ各社とも円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在においてU S Sグループが判断したものであります。

(会社の経営の基本方針)

「Challenge to Next Stage」

- U S Sは中古車流通業界をリードする総合企業に変わります -
  - 社会に貢献できる中古車流通総合企業を目指します
  - お客様や社会に信頼される企業を目指します
  - グループ総合力により変化に対応できる企業を目指します
  - 将来のU S Sグループを担う自立した人材を育成します
  - 株主を重視した経営を行います

(目標とする経営指標)

健全な財務体質を維持し、資本効率を重視した経営を標榜し、自己資本当期純利益率(ROE)を重要な経営指標として捉え、中期的に15%以上の水準を目指してまいります。(2019年3月期ROE実績14.5%)

(中長期的な会社の経営戦略)

U S Sグループは、会社の経営の基本方針に「Challenge to Next Stage」を掲げ、以下の重点課題に取り組んでまいります。

社会に貢献できる中古車流通総合企業を目指します

- ・最新の技術を開発・導入することにより、公正かつ透明性の高いオークションを運営します。
- ・インターネットなどのチャネルを拡充し、全国共通のサービスを提供します。
- ・地球環境を守るため廃車の適正処理を行い、リサイクル事業を強化します。

お客様や社会に信頼される企業を目指します

- ・オークション運営の質を向上し、全国共通のサービスを提供します。
- ・IT管理体制を再構築し、災害対策も含め情報セキュリティを強化します。

グループ総合力により変化に対応できる企業を目指します

- ・グループ会社間の連携を強化し、事業環境の変化に対応します。
- ・中古車オークションを軸にして、他企業との連携を積極的に推進します。
- ・新事業に積極的に取り組みます。

将来のU S Sグループを担う自立した人材を育成します

- ・社員の自立を促す新たな人事制度を導入します。
- ・教育・研修制度を充実させ、将来の経営を担う人材を育成します。

株主を重視した経営を行います

- ・株主への利益還元を最重要課題の一つとして認識します。
- ・連結ベースの配当性向50%以上を基本方針とします。

これらの活動を通して、U S Sグループはさらなる事業成長を達成し、中古車流通業界をリードする総合企業を目指します。

( 会社の対処すべき課題 )

今後の新車販売市場は、消費税増税が予定されているものの、自動車関連税制の改正などにより、新車登録台数は前期並みの水準で推移するものと思われます。

このような経営環境の中、U S SグループはJ A A会場およびH A A神戸会場を含めたオークション運営の効率化を推進するとともに、会場リニューアルなどの設備投資を積極的に行い、会員の利便性向上を進めてまいります。

なお、U S Sグループが対処すべき課題は以下のとおりです。

会員の利便性向上

会員の利便性向上に資する設備投資については優先的に実施し、会員の満足度向上を図ります。

効果的なM & Aの実施

U S SグループはM & Aを企業成長の機会と捉え、将来キャッシュ・フローの増加に繋がる案件については積極的な投資を行います。

他業種企業との連携

業務・資本提携などの実施により、シナジー効果の獲得が見込まれる他業種企業との連携を模索します。

中古自動車等買取販売事業、その他の事業の強化

オートオークション事業を核として、中古自動車等買取販売事業やリサイクル事業を拡大し「中古車流通業界をリードする総合企業」を目指します。

( 株式会社の支配に関する基本方針 )

( 1 ) 基本方針の内容

当社は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、なにより当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させていくことが可能な者である必要があると考えています。

U S Sグループは、経営理念を 公正な市場の創造、 会員との共生、 消費者への奉仕、 株主への還元、 社員の尊重、 地域への貢献と定めています。この理念のもとに、事業を推進していくことが、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上につながるものと考えています。

また、当社は、公開会社として当社株式の自由な売買が認められている以上、特定の者の大規模な買付行為に応じて当社株式を売却するか否かは、最終的には株主の皆様の判断に委ねられるべきものと考えており、当社株式に対する大規模な買付行為があった場合においても、これが当社の企業価値の向上および株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。

しかしながら、当社株式の大規模な買付行為や買付提案の中には、株主や会社に対して、買付に係る提案内容や代替案を検討するための十分な時間や情報を与えないもの、買付目的や買付後の経営方針等に鑑み、当社の企業価値・株主共同の利益に対する侵害をもたらすおそれのあるもの、株主に株式等の売却を事実上強要するおそれのあるもの、買付条件が当社の企業価値・株主共同の利益に鑑み不十分または不相当であるもの等、企業価値・株主共同の利益に資さないものも想定されます。

このような大規模な買付行為や買付提案を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えています。

( 2 ) 基本方針の実現に資する取組み

当社は、上記の基本方針を実現するため、経営理念のもとに、事業を推進していくことに加え、以下のとおりコーポレートガバナンスの充実に取り組んでいます。

U S Sグループでは、健全で持続的な成長を確保し、株主の皆様をはじめとするステークホルダーからの社会的信頼に応えていくことを企業経営の基本的使命と位置づけており、その実現のための重要施策として、コーポレートガバナンスの充実に取り組んでいます。

当社取締役会では、U S Sグループの事業に精通した取締役と、独立性の高い社外取締役による審議を通して、意思決定の迅速性と透明性を高めています。また、社外監査役を含む監査役による監査を通して、取締役の職務執行の適法性、効率性、合理性、意思決定プロセスの妥当性等を厳正に監視・検証し、経営に対する監査機能の充実に図っています。

U S Sグループでは、コンプライアンスの基本原則を「U S S行動・倫理規範」として定めており、取締役が率先して企業倫理の遵守と浸透にあたっています。また、財務報告の信頼性の確保および意思決定の適正性の確保などを含めた「U S Sグループ内部統制システム」を定めており、U S Sグループの業務が適正かつ効率的に実施されることを確保するための内部統制システムを整備しています。

内部統制システムの有効性については、内部監査担当部署が年間計画に基づき内部監査を実施し、重要な事項について取締役会および監査役に報告しています。

( 3 ) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、2006年5月16日開催の取締役会において、当社の企業価値または当社株主の皆様の共同の利益の確保・向上の取組みとして、大規模買付行為により当社の企業価値または当社株主の皆様の共同の利益が毀損されることを未然に防止するため、当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）を導入することを決議いたしました。その後、かかる買収防衛策は、2009年6月24日開催の第29期定時株主総会および2012年6月26日開催の第32期定時株主総会において、それぞれ、その一部を変更の上継続することについて株主の皆様のご承認を頂きました（以下、2012年6月26日開催の第32期定時株主総会において株主の皆様にご承認頂いたプランを「本プラン」といいます。）。

当社は、2015年6月30日をもって有効期間満了を迎える本プランの取扱いについて検討した結果、現在の経営環境を前提とすると、本プランを継続することが必要不可欠なものではないと判断し、2015年5月13日開催の取締役会において、かかる有効期間満了をもって本プランを継続しないことを決議しました。

もっとも、当社は、本プランの有効期間満了後も引き続き、当社株式に対して大規模な買付行為や買付提案を行おうとする者に対しては、関係する法令に従い、大規模買付行為の是非を株主の皆様が適切に判断するための必要かつ十分な情報の開示を求め、あわせて当社取締役会の意見等を開示するとともに、株主の皆様の検討のために必要な時間と情報の確保に努めるなど、適宜適切な措置を講じてまいります。

( 4 ) 基本方針の実現に資する取組みについての取締役会の判断

当社は、上記基本方針を実現するための取組みとして上記( 2 )および( 3 )の取組みを進めることにより、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上につながれると考えていると同時に、当社の企業価値・株主共同の利益に資さない大規模な買付行為や買付提案を行うことは困難になるものと考えています。また、大規模な買付行為や買付提案を行う者が現れた場合も、その是非を株主の皆様が適切に判断するための必要かつ十分な情報および時間の確保に努めるなど、適切な措置を講じてまいります。したがって、上記( 2 )および( 3 )の取組みは基本方針に沿うものであり、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

## 2【事業等のリスク】

U S S グループの経営成績、株価および財務状況等に影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在においてU S S グループが判断したものであります。

### ( 公的規制等 )

U S S グループは、国内において、古物営業法、環境・リサイクル関連法等の法的規制の適用を受けております。U S S グループにおきましては、法的手続きによる権利の保全にも万全を期しておりますが、将来において、現在予測し得ない法的規制が設けられる可能性があり、これらの法的規制に係る指摘を受けた場合、U S S グループの事業活動が制限されるおそれがあり、業績に影響を及ぼす可能性があります。

### ( 会員およびオークション参加の勧誘および確保について )

U S S グループの事業にとって、新会員の勧誘、既存会員の確保、会員のオークション参加促進は重要な施策となります。しかし、下記の場合などには、これらの施策に支障が生じる可能性があります。

- ・ 競合他社がU S S グループの提供しないサービス、施設または便益を提供する場合
- ・ オークション会場での出品台数・成約率が競合他社と比べて低い場合
- ・ 役員および従業員の行為がU S S グループの評判に悪影響を与える場合
- ・ 大口出品業者が、何らかの理由で他の販路を選ぶ場合

### ( 出品車両の調達について )

オートオークション事業はオークション出品車両の調達に大きく依存しており、車両の供給が不足する場合には、最適な規模でのオークション開催ができない可能性があります。

現状、出品車両の調達は大口出品業者にある程度依存しており、U S S グループはこれらの業者の参加促進のために、手数料の大口割引制度を実施しています。将来U S S グループが手数料などの条件を変更した場合には、これらの大口出品業者等の出品台数に影響を与える可能性があります。また、今後とも必要な出品台数を確保できるという保証はなく、これが事業および経営成績に影響を与える可能性があります。

### ( 成約率の低下について )

U S S グループは成約率（オークション出品車両のうち売買契約が締結された割合）の低下を経験しています。成約率の低下は、出品台数に影響を与える可能性があります。

### ( 既存設備拡張の限界について )

U S S グループの既存設備における事業拡張については、必要とする駐車スペースの確保等の面で能力に限界があります。駐車スペースの拡張には、土地の購入、賃借または立体駐車場の建設など、大規模な設備投資が必要となります。

### ( 新しい施設に関連するリスクについて )

U S S グループはオークション会場の新設ならびに同業者の買収により事業を拡大しておりますが、今後とも事業拡大のために、会場の新設、同業者の買収や提携を進める可能性があります。このような事業拡大には下記のようなリスクを伴います。

- ・ 新設や買収したオークション会場で十分な量の会員または出品車両を確保できない可能性があります。
- ・ 買収や合併に際しては、偶発債務もしくは簿外債務、経営上の問題、権利の瑕疵など、不確実な要因が残る場合があります。
- ・ 事業の拡張によって拡大、複雑化する組織を適切に監督するため、当社の経営負担は増大する可能性があります。
- ・ オークション会場の拡張や移転をするためには、当局による各種許認可を取得する必要があります。これらの許認可の取得に支障が生じた場合には、計画を遅延または中止しなくてはならない可能性があります。

(資産の減損)

企業買収などにより取得したのれんをはじめ、U S Sグループの保有する減損会計の対象となる資産について、将来キャッシュ・フローにより資産の帳簿価額を回収できないと判断される場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上することになります。保有資産に係る将来キャッシュ・フローの見込みにより、減損損失を計上することとなった場合、U S Sグループの事業展開、経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(市場全体の成長の限界について)

現在、日本における自動車流通市場は成熟しており、成長の余地は大きくはないものと考えられます。U S Sグループの事業は、オートオークションの利用者にとって有益な自動車流通システムを開発し、これを浸透させることが重要であります。U S Sグループが競合他社を凌ぎ、市場シェアを拡大することができない場合には、収益の減少、成長率の低下等に結びつく可能性があります。

これまでU S Sグループは各営業地域のオークション会場において高いシェアを確保してきました。しかし、競合他社が積極的な事業の拡大を行ったり、合併や提携を進めた場合、これらの企業がU S Sグループにとって対抗できない大規模な施設、サービス、その他便益を提供する可能性があります。一方、自動車メーカー等がその系列販売会社の流通網を活用し、新たな中古自動車の流通形態を構築したときには、強力な競争相手となり得ます。競争の激化はU S Sグループの成長性、収益性に悪影響を与えかねません。またU S Sグループが設定する手数料および各種料金は、常に競合他社よりも低水準であるという保証はありません。

(急激な技術革新について)

現車オークション、衛星TV回線およびインターネットを通じたオークション情報提供に関しては、急激な技術革新と顧客の需要の変化が市場の特徴となっており、U S Sグループの将来の成功は、急激な技術革新、サービス競争の激化、需要レベルの高度化に対応していくことができるか否かによって決まります。しかしながらこれらの変化に順応できない場合、U S Sグループの事業、財政状態および業績は影響を受ける可能性があります。さらに競合するオークション会場が一層高度な電子商取引技術等を広範に取り入れた場合、U S Sグループはその対応のために相当な出費を余儀なくされる可能性があります。これらの出費はU S Sグループの財源を圧迫し、事業計画の変更や、財政状態および業績に影響を与えるということもありません。また、U S Sグループがこれらの技術を利用した競争力のあるサービスの提供を行うことができるという保証はありません。

(U S Sグループの集中管理について)

当社の連結対象子会社の管理業務全般は、当社統括本部にて集中管理をしており、データのバックアップをとるなどの対策を講じているものの、システムに何らかの支障が生じた場合には、業務に影響を与える可能性があります。

(会員情報の管理について)

U S Sグループのオークションは会員制オークションであり、会員の多くは中古自動車販売業を営んでおります。これらの会員の情報は、個人情報が含まれているため、個人情報保護方針に基づき厳正に管理をしておりますが、万一、漏洩した場合には、U S Sグループに対する信用の失墜につながり、業績に影響を与える可能性があります。

(自然災害、事故災害に関するリスクについて)

地震、台風、津波等の自然災害や火災等の事故災害が発生し、U S Sグループの拠点等が被災した場合、その一部または全部の操業が中断し、サービスの提供や販売ができなくなる可能性があります。また、被災した建物、設備等を復旧するために多額の費用が発生するおそれもあり、その結果、U S Sグループの事業、財政状態および業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

##### 財政状態および経営成績の状況

当連結会計年度における国内自動車流通市場は、登録車の新車登録台数が3,336千台（前期比0.0%減）、軽自動車の新車登録台数は1,922千台（前期比3.4%増）となり、新車登録台数全体では5,259千台（前期比1.2%増）となりました。

中古車登録台数は、登録車が3,842千台（前期比0.4%増）、軽自動車は3,112千台（前期比1.5%増）となり、中古車登録台数全体では6,955千台（前期比0.9%増）となりました。（（一社）日本自動車販売協会連合会、（一社）全国軽自動車協会連合会調べ）

また、中古車輸出市場は、主な仕向地のうち、ミャンマー、パキスタン、ニュージーランドなどの輸出台数が減少したものの、アフリカ諸国やモンゴル、ロシア向けの輸出台数が堅調に推移したことなどから輸出台数は1,322千台（前期比1.2%増）となりました。（財務省貿易統計調べ）

オートオークション市場における出品台数は7,468千台（前期比0.4%増）、成約台数は4,814千台（前期比1.4%増）、成約率は64.5%（前期実績63.8%）となりました。（（株）ユーストカー調べ）

このような経営環境の中、U S Sグループの当連結会計年度における経営成績は、売上高79,908百万円（前期比6.3%増）、営業利益37,123百万円（前期比2.9%増）、経常利益38,039百万円（前期比3.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益25,543百万円（前期比5.2%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

##### オートオークション

2017年8月に株式会社ジェイ・エー・エーを子会社化（みなし取得日 2017年9月30日）したことから取扱台数が増加し、当連結会計年度の出品台数は2,930千台（前期比8.5%増）、成約台数は1,825千台（前期比6.8%増）、成約率は62.3%（前期実績63.3%）となりました。

オートオークションにおける売上高は、取扱台数が増加したことに加え、2018年2月に実施した会場落札手数料の値上げなどにより、オークション手数料収入が増加しました。

営業費用については、株式会社ジェイ・エー・エーの子会社化にともない、連結対象となった子会社の費用が増加したことに加え、のれん償却額が1,983百万円（前期比91.9%増）となりました。

この結果、オートオークションのセグメントは、外部顧客に対する売上高64,684百万円（前期比8.7%増）、営業利益36,323百万円（前期比3.4%増）となりました。

##### 中古自動車等買取販売

中古自動車買取専門店「ラビット」は、不採算店舗の見直しを進めたことによる販売台数の減少に加え、広告宣伝費が増加したことから減収減益となりました。

事故現状車買取販売事業は、車両単価の高い車種の取扱台数が増加したものの、台当たり粗利益が減少したことなどから増収減益となりました。

この結果、中古自動車等買取販売のセグメントは、外部顧客に対する売上高9,701百万円（前期比1.3%減）、営業利益116百万円（前期比32.2%減）となりました。

##### その他

廃自動車等のリサイクル事業は、パーツ販売の一部を終了したことに加え、前期に上昇基調であった鉄スクラップ相場が当期は低調に推移したこともあり、減収減益となりました。

中古自動車の輸出手続代行サービス事業は、受注台数が増加したことから増収増益となりました。

この結果、その他のセグメントは、外部顧客に対する売上高5,522百万円（前期比4.9%減）、営業利益583百万円（前期比12.3%減）となりました。

財政状態の分析状況は次のとおりであります。

当連結会計年度末における総資産は232,703百万円、純資産は183,535百万円で、自己資本比率は78.1%となりました。主な増減内容は以下のとおりです。

##### （総資産）

当連結会計年度末の資産合計は232,703百万円となり、前連結会計年度末と比較して10,411百万円増加しました。これは主に、現金及び預金が11,729百万円、自己株式購入のための預け金など流動資産のその他が4,589百万円増加した一方で、オークション貸勘定が2,344百万円、のれんが1,983百万円、有形固定資産が1,620百万円減少したことによるものです。

(負債)

負債合計は49,168百万円となり、前連結会計年度末と比較して933百万円減少しました。これは主に、J A A会場の建替えに伴う未払金など流動負債のその他が1,065百万円増加した一方で、長期預り保証金が969百万円、長期借入金690百万円減少したことによるものです。

(純資産)

純資産合計は183,535百万円となり、前連結会計年度末と比較して11,344百万円増加しました。これは主に、利益剰余金が13,105百万円増加した一方で、自己株式の取得により2,082百万円減少したことによるものです。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末と比較して11,729百万円増加し、45,452百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は32,894百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益38,330百万円(前期比4.6%増)、法人税等の支払額13,324百万円(前期比29.8%増)、減価償却費及びその他の償却費5,372百万円(前期比6.0%増)、オークション勘定の増減額2,214百万円(前期比266.7%増)、のれん償却額1,983百万円(前期比91.9%増)によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は1,496百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1,837百万円(前期比53.9%減)、有形固定資産の売却による収入633百万円(前期実績56百万円)、無形固定資産の取得による支出590百万円(前期比28.6%増)によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は19,668百万円となりました。これは主に、配当金の支払額12,438百万円(前期比4.7%増)、自己株式取得のための金銭の信託の増加額3,640百万円(前期実績-百万円)、自己株式の取得による支出2,359百万円(前期実績0百万円)によるものです。

生産、受注及び販売の実績

当連結会計年度における実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(a) オートオークション

(1) オートオークションの実績

区分	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比(%)
出品台数(台)	2,930,127	108.5
成約台数(台)	1,825,991	106.8
成約率(%)	62.3	98.4
成約車両金額(百万円)	1,250,097	108.5
開催回数(回)	881	105.6

(注) 成約車両金額は、オートオークションによる成約(落札)車両取扱高であり、車両代金(消費税等含まず)の総額であります。

(2) 登録会員数

区分	当連結会計年度末 (2019年3月31日現在)	前年同期比(%)
現車オートオークション登録会員数 (社)	48,723	102.9
衛星TV情報サービス登録会員数(社)	2,468	94.1
インターネット情報サービス登録会員 数(社)	31,639	104.3

(3) 1台当たり手数料の実績

区分	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比(%)
出品手数料(円)	5,211	99.4
成約手数料(円)	8,158	100.7
落札手数料(円)	12,220	103.5

- (注) 1. 上表における各事項の記載金額には、消費税等を含めておりません。  
2. 上記各手数料につきましては会場、出品ブロック(時間帯および出品車両による区分)により異なりますので、年間平均手数料を記載しております。  
3. 出品手数料および成約手数料は出品会員が負担し、落札手数料は落札会員が負担いたします。  
4. 出品手数料および成約手数料につきましては、大口出品会員に対する手数料割戻制度を有しており、割戻後の金額を記載しております。

(4) JBAバイクオークションの実績

区分	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比(%)
出品台数(台)	116,308	106.3
成約台数(台)	104,373	104.6
成約率(%)	89.7	98.4
開催回数(回)	98	100.0

(5) 販売(営業収益)の実績

種類別販売(営業収益)の実績

区分	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比(%)
出品手数料(百万円)	15,269	107.9
成約手数料(百万円)	14,898	107.5
落札手数料(百万円)	22,313	110.5
バイクオークション手数料(百万円)	784	107.4
商品売上高(百万円)	2,408	126.3
その他の営業収入(百万円)	9,009	103.8
合計(百万円)	64,684	108.7

- (注) 1. 上表における各事項の記載金額には、消費税等を含めておりません。  
2. バイクオークション手数料は、株式会社ジャパンバイクオークションが運営するバイクオークションの手数料であります。

会場別販売（営業収益）の実績

区分	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比(%)
名古屋会場(百万円)	9,515	100.3
九州会場(百万円)	3,287	99.4
福岡会場(百万円)	640	117.2
東京会場(百万円)	14,222	104.5
岡山会場(百万円)	1,400	108.6
静岡会場(百万円)	1,692	109.9
札幌会場(百万円)	2,868	107.1
埼玉会場(百万円)	885	97.4
群馬会場(百万円)	1,041	95.1
東北会場(百万円)	1,165	101.9
大阪会場(百万円)	3,187	133.0
横浜会場(百万円)	3,515	103.0
R - 名古屋会場(百万円)	2,893	107.3
神戸会場(百万円)	1,743	119.4
北陸会場(百万円)	289	121.6
新潟会場(百万円)	554	105.1
J A A会場(百万円)	2,229	146.0
H A A神戸会場(百万円)	4,869	154.4
物流サービス(百万円)	273	129.1
衛星TV情報サービス(百万円)	1,398	87.0
インターネット情報サービス(百万円)	5,694	104.1
金融サービス(百万円)	378	113.9
バイクオークション(百万円)	936	107.1
合計(百万円)	64,684	108.7

(注) 1. 上表における各事項の記載金額には、消費税等を含めておりません。

2. 岡山会場には四国会場の営業収益を含めております。

3. J A A会場およびH A A神戸会場を運営している株式会社ジェイ・エー・エーおよび株式会社H A A神戸については、前連結会計年度において連結の範囲に追加(みなし取得日 2017年9月30日)したため、前年同期比(%)は当該連結対象期間の実績との比較数値を記載しております。

4. 物流サービスは、株式会社ユー・エス物流および株式会社オークション・トランスポートの営業収益であります。株式会社ユー・エス物流の営業収益は265百万円(前年同期比132.8%)であり、株式会社オークション・トランスポートの営業収益は7百万円(前年同期比65.7%)であります。

なお、株式会社オークション・トランスポートは、2019年3月1日付けで当社の連結子会社である株式会社ジェイ・エー・エーを存続会社とする吸収合併により消滅しております。

(b) 中古自動車等買取販売

(1) 中古自動車買取店舗数

区分	当連結会計年度末 (2019年3月31日現在)	前年同期比(%)
中古自動車買取店舗数(店舗)	158	96.3

(注) フランチャイジーの店舗数(141店舗)を含めております。

(2) 種類別販売(営業収益)の実績

区分	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比(%)
中古自動車買取販売(百万円)	5,702	97.2
事故現状車買取販売(百万円)	3,998	101.0
合計(百万円)	9,701	98.7

(注) 上表における各事項の記載金額には、消費税等を含めておりません。

(c) その他

種類別販売(営業収益)の実績

区分	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比(%)
廃自動車等のリサイクル(百万円)	4,910	93.7
中古自動車の輸出代行サービス (百万円)	518	108.9
その他(百万円)	93	102.9
合計(百万円)	5,522	95.1

(注) 上表における各事項の記載金額には、消費税等を含めておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点によるU S Sグループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析は、連結財務諸表に基づいて分析したものであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針および見積り

U S Sグループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づいて作成されております。この連結財務諸表の作成には、決算日における資産・負債の報告数値、各連結会計年度における収入・費用の報告数値に影響を与える見積りおよび仮定の設定を行っております。主に貸倒引当金、退職給付に係る負債、繰延税金資産等に対して、継続して評価を行っており、これらの見積りについては、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果と異なる場合があります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容

当社は、国内オートオークション市場におけるシェアの向上および関西エリアの競争力強化の目的から、2018年3月1日付けで株式会社ジェイ・エー・エーの株式の34.0%を取得して、完全子会社といたしました。

これにより、U S Sグループの関西エリアにおける競争力が大きく改善し、関東、中部、関西の主要都市圏において、4割(2018年暦年の会場別集計実績)を超えるシェアを獲得しております。

また、2018年8月にはH A A神戸会場、2019年1月にはJ A A会場にU S Sグループ共通のオークションシステムを導入し、U S Sグループの既存会場と同様のネットワークを構築いたしました。

U S S グループの当連結会計年度の売上高は、前期と比較して4,754百万円増加して79,908百万円（前期比6.3%増）となりました。

売上高が増加した主な要因は、株式会社ジェイ・イー・エーの子会社化により出品台数が増加したことに加え、2018年2月に実施した会場落札料の値上げにより手数料単価が上昇したことによるものです。

売上原価は、前期と比較して2,217百万円増加して31,391百万円（前期比7.6%増）となりました。増加した主な要因は、株式会社ジェイ・イー・エーの子会社化によるものです。

販売費及び一般管理費は、前期と比較して1,485百万円増加して11,393百万円（前期比15.0%増）となりました。増加した主な要因は、株式会社ジェイ・イー・エーの子会社化によるのれん償却額および減価償却費（顧客関連資産の償却）が増加したことによるものです。

以上の結果、当連結会計年度の営業利益は、前期と比較して1,051百万円増加して37,123百万円（前期比2.9%増）となりました。

営業外収益は、不動産賃貸料450百万円などにより990百万円、営業外費用は74百万円となりました。

特別利益は、関係会社株式売却益319百万円などにより472百万円、特別損失は、固定資産売却損131百万円などにより181百万円となりました。

以上の結果、当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益は、前期と比較して1,257百万円増加して25,543百万円（前期比5.2%増）となりました。

U S S グループの資本の財源および資金の流動性につきましては、次のとおりです。

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して11,729百万円増加し、45,452百万円となりました。これは、営業活動により得られた資金32,894百万円に対して、有形固定資産の取得など投資活動により支出した資金1,496百万円、配当金の支払い、自己株式の取得など財務活動により支出した資金19,668百万円によるものであります。

なお、U S S グループは、必要な運転資金および設備投資資金について自己資金または銀行借入により調達するものとし、当連結会計年度末における有利子負債残高は3,112百万円であります。

経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等につきましては、次のとおりです。

当連結会計年度の業績は、2018年11月12日に公表した業績予想に対して、売上高は708百万円の増加（0.9%増）、営業利益は176百万円の減少（0.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は543百万円の増加（2.2%増）となりました。この主な要因は以下のとおりです。

売上高は、オークションにおいて出品台数が予想より40千台増加したことに加え、中古自動車等買取販売において車両単価の高い車種の取扱台数が増加したことなどから予想を上回りました。

営業利益は、オークション会場における低額車の取扱いが予想を上回ったほか、中古自動車等買取販売において車両単価の高い車種の取扱いが増加したことなどから、売上原価が増加し、予想を下回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、非連結子会社であるPT.JBA Indonesiaからの配当金を受け取るとともに同社の株式を現地企業に売却したことで、営業外収益および特別利益が増加したことから、予想を上回りました。

当社の目標とする経営指標である自己資本当期純利益率（ROE）は、14.5%となりました。今後もROEについては中期的に15%以上の水準を目指してまいります。

	2019年3月期 (実績)	2019年3月期 (計画)	増減	計画比
出品台数(台)	2,930,127	2,890,000	40,127	101.4%
成約台数(台)	1,825,991	1,815,000	10,991	100.6%
成約率	62.3%	62.8%	0.5ポイント減	-
売上高(百万円)	79,908	79,200	708	100.9%
営業利益(百万円)	37,123	37,300	176	99.5%
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	25,543	25,000	543	102.2%
自己資本当期純利益率(ROE)	14.5%	14.1%	0.4ポイント増	-

セグメントごとの財政状態および経営成績の状況に関する認識ならびに分析・検討内容は、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 財政状態および経営成績の状況」に記載のとおりであります。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度に実施いたしました設備投資の総額は、2,246百万円（完工ベース）であり、オートオークション事業を中心に行いました。主要なものは以下のとおりであります。

H A A 神戸会場システム機器入替	388百万円
九州会場システム機器入替	369百万円
J A A 会場システム機器入替	329百万円

（注）記載金額には、消費税等を含めておりません。

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

（2019年3月31日現在）

事業所 （所在地）	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額							従業員 数 （名）
			土地		建物 （百万円）	構築物 （百万円）	車両運搬具 （百万円）	工具、器具 及び備品 （百万円）	合計 （百万円）	
			面積 （㎡）	金額 （百万円）						
名古屋会場 （愛知県東海市）	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	(18,320.84) 116,510.49	5,644	12,230	260	0	102	18,237	86
九州会場 （佐賀県鳥栖市）	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	(37,414.00) 127,639.77	2,514	586	60	0	234	3,395	36
東京会場 （千葉県野田市）	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	(20,140.05) 546,385.47	7,558	1,891	653	0	430	10,534	113
静岡会場 （静岡県袋井市）	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	76,085.34	2,237	906	143	0	102	3,390	19
札幌会場 （北海道江別市）	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	174,877.06	1,770	1,756	114	0	212	3,854	34
埼玉会場 （埼玉県入間市）	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	(5,847.76) 71,546.59	3,049	1,425	41	0	3	4,520	17
大阪会場 （大阪府大阪市西淀 川区）	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	52,638.00	3,719	3,050	25	0	16	6,812	31
横浜会場 （神奈川県横浜市鶴 見区）	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	99,151.61	9,072	2,424	39	0	157	11,694	37
R - 名古屋会場 （愛知県東海市）	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	(8,409.16) 58,400.81	3,002	810	268	0	89	4,170	14
神戸会場 （兵庫県神戸市中央 区）	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	(21.00) 62,153.03	5,144	2,623	37	0	10	7,816	16

（注）1．帳簿価額には、建設仮勘定を含めておりません。

2．土地の面積で（ ）内は賃借中のものであり、外書で表示しております。

3．土地の金額は、土地の再評価に関する法律に基づき再評価を行った後の金額を計上しております。

4．従業員数には社外から当社への出向者を含み、嘱託社員、契約社員、パートタイマーおよび人材会社からの派遣社員は含めておりません。

5．上記のほか、全国に7箇所のオークション会場を展開しております。

(2) 子会社

(2019年3月31日現在)

会社名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額								従業員 数 (名)
			土地		建物 (百万円)	構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬具 (百万円)	工具、器具 及び備品 (百万円)	リース 資産 (百万円)	合計 (百万円)	
			面積 (㎡)	金額 (百万円)							
株式会社アビツ (愛知県名古屋市 港区)	その他	工場用 地およ び建物	(10,658.46) 112,177.88	2,456	626	64	580	23	91	3,842	128
株式会社USS ロジスティク ス・インターナ ショナル・サー ビス (神奈川県横浜市 鶴見区)	その他	車両保 管用地	[36,364.22] 36,364.22	[3,322] 3,322	[0] 0	[29] 30	0	[0] 0	-	[3,352] 3,353	7
株式会社ジェ イ・エー・エー (東京都江戸川 区)	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	(35,055.34) 34,570.62	8,503	88	82	6	213	-	8,894	49
株式会社HAA 神戸 (兵庫県神戸市中 央区)	オート オーク ション	会場用 地およ び建物	(125,248.87) 1,999.00	224	1,188	32	9	209	-	1,663	57

(注) 1. 帳簿価額には、建設仮勘定を含めておりません。

2. 土地の面積で( )内は賃借中のものであり、外書で表示しております。

3. [ ]は提出会社から賃借しているもので内書で表示しております。

4. 従業員数には社外から当社への出向者を含み、嘱託社員、契約社員、パートタイマーおよび人材会社からの派遣社員は含めておりません。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

U S S グループの設備投資につきましては、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。

設備投資は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、計画策定にあたっては、提出会社取締役会において調整を図っております。

#### 重要な設備の新設等

会社名	事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額 (百万円)		資金調達	着手年月	完了予定 年月
					総額	既支払額			
株式会社 ユー・エス・エス	R - 名古屋 会場	愛知県 東海市	オート オークション	立体駐車場の 新築	3,400	-	自己資金	2019年 10月	2020年 5月

(注) 1. 上記の金額には、消費税等を含めておりません。

2. R - 名古屋会場における会員の利便性の向上とオークション運営の効率化を目的とするものであります。

3. 第3四半期連結累計期間において新たに計画したR - 名古屋会場の立体駐車場の新築については、仕様の変更等により投資予定金額の総額、着手年月および完了予定年月を変更しております。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,200,000,000
計	1,200,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年6月19日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	313,250,000	313,250,000	東京証券取引所 名古屋証券取引所 各市場第一部	単元株式数 100株
計	313,250,000	313,250,000	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含めておりません。

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

ストックオプション制度の内容は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」の(ストック・オプション等関係)に記載しております。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2013年10月1日 (注)	281,925,000	313,250,000	-	18,881	-	4,583

(注) 2013年10月1日付けで行った普通株式1株を10株とする株式分割によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

(2019年3月31日現在)

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	52	27	107	523	11	7,851	8,571	-
所有株式数(単元)	-	582,944	38,881	218,140	1,162,298	76	1,130,023	3,132,362	13,800
所有株式数の割合(%)	-	18.61	1.24	6.97	37.10	0.00	36.08	100.00	-

(注) 自己株式60,059,739株は、「個人その他」に60,597単元、「単元未満株式の状況」に39株含めております。なお、信託型従業員持株インセンティブ・プランの導入に伴い設定されたU S S従業員持株会専用信託が所有する株主名簿上の当社株式123,000株は、「金融機関」に1,230単元含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

(2019年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	22,919	9.05
瀬田 大	名古屋市瑞穂区	15,102	5.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	14,815	5.85
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟)	11,948	4.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	10,491	4.14
瀬田 衛	名古屋市千種区	9,200	3.63
安藤 之弘	名古屋市瑞穂区	9,176	3.62
野村信託銀行株式会社(退職給付信託三菱UFJ銀行口)	東京都千代田区大手町2丁目2番2号	8,400	3.31
株式会社服部モータース	名古屋市千種区日進通2丁目5番地	7,280	2.87
公益財団法人服部国際奨学財団	愛知県名古屋市瑞穂区檀溪通5丁目21番地2	7,100	2.80
計		116,433	45.98

(注) 1. 上記のほか、自己株式が60,059千株あります。

2. 上記のほか、大量保有報告書(変更報告書)において、以下の株式を保有している旨報告を受けております。

(1) エフエムアール エルエルシー他1社連名により2018年11月22日付けで提出された変更報告書において、2018年11月15日現在で以下の株式を保有している旨記載されておりますが、当社として2019年3月31日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
エフエムアール エルエルシー	米国 02210 マサチューセッツ州ボストン、サマー・ストリート245	31,309	12.36
ナショナル ファイナンシャルサービス エルエルシー	米国 02210 マサチューセッツ州ボストン、シーポート・ブルーバード200	1	0.00
合計		31,310	12.36

(2) 株式会社三菱UFJ銀行他2社連名により2018年4月16日付けで提出された変更報告書において、2018年4月9日現在で以下の株式を保有している旨記載されておりますが、当社として2019年3月31日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	8,400	3.31
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	8,196	3.23
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号	1,139	0.45
合計		17,736	7.00

(3) MFSインベストメント・マネジメント株式会社他1社連名により2014年6月5日付けで提出された大量保有報告書において、2014年5月30日現在で以下の株式を保有している旨記載されておりますが、当社として2019年3月31日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
MFSインベストメント・マネジメント株式会社	東京都千代田区霞が関一丁目4番2号 大同生命霞が関ビル	1,296	0.51
マサチューセッツ・ファイナンシャル・サービスズ・カンパニー	米国 02199 マサチューセッツ州、ボストン、ハンティントンアベニュー111	17,925	7.07
合計		19,222	7.59

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

(2019年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 60,059,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 253,176,500	2,531,765	-
単元未満株式	普通株式 13,800	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	313,250,000	-	-
総株主の議決権	-	2,531,765	-

(注) U S S従業員持株会専用信託が所有する株主名簿上の当社株式123,000株(議決権の数1,230個)につきましては、完全議決権株式(その他)に含めて表示しております。

【自己株式等】

(2019年3月31日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ユー・エス・エス	愛知県東海市新宝町507番地の20	60,059,700	-	60,059,700	19.17
計	-	60,059,700	-	60,059,700	19.17

(注) 自己名義所有株式としては、上記のほか単元未満株式39株を所有しております。

(8)【役員・従業員株式所有制度の内容】

従業員株式所有制度の概要

当社は、U S Sグループ従業員に対する当社の中長期的な企業価値向上へのインセンティブの付与を目的として、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」(以下「本プラン」といいます。)を第37期事業年度より再導入しております。

本プランでは、当社が信託銀行に「U S S従業員持株会専用信託」(以下「従持信託」といいます。)を設定し、従持信託は、設定後3年間にわたり「U S S従業員持株会」(以下「持株会」といいます。)が取得すると見込まれる数の当社株式を予め取得し、その後、信託終了まで毎月持株会へ売却します。なお、従持信託は当社株式を取得するための資金確保のため、当社保証による銀行借入を行っております。

信託終了時点において、持株会への当社株式の売却を通じて従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当社株式売却益相当額が信託残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。当社株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積した場合には、当該株式売却損相当の借入金残債について、責任財産限定特約付金銭消費貸借契約に基づき当社が弁済することになります。

期末に連結貸借対照表に計上した従持信託の保有する当社株式は、前連結会計年度496百万円(255,900株)、当連結会計年度223百万円(115,100株)、従持信託による借入金は、前連結会計年度470百万円、当連結会計年度177百万円です。

従業員持株会に取得させる予定の株式の総数

380千株

注(2019年3月31日時点における従持信託の保有株式数は115千株であります。)

当該従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

受益者適格要件を満たす者(受益権確定事由の発生後一定の手続きを経て存在するに至ります。)

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2019年2月12日)での決議状況 (取得期間 2019年2月12日~2019年9月20日)	5,000,000	10,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	1,175,100	2,359,114,900
残存決議株式の総数及び価額の総額	3,824,900	7,640,885,100
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	76.49	76.40
当期間における取得自己株式	1,732,800	3,573,791,000
提出日現在の未行使割合(%)	41.84	40.67

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までに取得した自己株式を含めておりません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	45	87,699
当期間における取得自己株式	40	83,120

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式を含めておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(新株予約権の行使)	4,300	3,418,500	-	-
保有自己株式数	60,059,739	-	61,792,579	-

(注) 1. 当事業年度および当期間の処分自己株式数には、U S S従業員持株会専用信託がU S S従業員持株会に譲渡した株式数は含めておりません。

2. 当事業年度および当期間の保有自己株式数には、U S S従業員持株会専用信託が保有する株式数を含めておりません。

3. 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの取引等を含めておりません。

### 3【配当政策】

当社は、適正な利益を確保してこれを株主の皆様へ還元することを経営上の最重要政策の一つとして考えており、これまでも安定的な配当の継続を基本にしつつ、業績の推移や財務状況を勘案し、増配あるいは株式分割を実施してまいりました。

当期は利益配当金を年間2円60銭増配し、年間配当金を1株当たり50円40銭とし、連結ベースの配当性向は50.1%となりました。

利益配分につきましては、安定的な配当の維持および適正な利益還元の観点から、業績に連動した配当政策として連結配当性向を指標に用いており、現在は連結配当性向50%以上を配当に関する基本方針としております。

なお、当社は、取締役会決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。したがって、当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本方針としております。

配当の決定機関につきましては、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

内部留保資金につきましては、事業基盤の強化・拡大のための設備投資、財務体質の強化のための原資として活用させていただき所存であります。

当期を基準日とする剰余金の配当の取締役会または株主総会の決議年月日は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たりの配当額（円）
2018年11月12日 取締役会決議	6,257	24.60
2019年6月18日 株主総会決議	6,532	25.80

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、中古自動車のオークション事業を中核とした中古自動車流通ビジネスという事業領域において、継続的な事業拡大を通じて「企業価値の増大」を図ることを経営の目標とします。

株式会社である以上、株主価値の増大がその最重要課題であることは当然ですが、当社は、「公正な市場の創造」、「会員との共生」、「消費者への奉仕」、「株主への還元」、「社員の尊重」、「地域への貢献」という6つの企業理念を掲げているように、これらステークホルダー（利害関係者）に対する責任を果たした結果が「企業価値」であり、「株主価値」は「企業価値」を通じて実現するものであるとの認識に基づき、その経営を行います。

また、企業が社会の一員である以上、その事業活動において社会規範を遵守すべきことは当然であり、コーポレートガバナンスに関する基本方針およびコーポレートガバナンス・コードへの対応について、毎事業年度最終の定時取締役会にて評価し、次年度以降の改善計画を策定することにより、当社はアカウンタビリティ（説明責任）の履行と、透明性の高い経営を確保し、コーポレートガバナンスの向上に取り組みます。

企業統治の体制の概要および当該体制を採用する理由

#### イ．企業統治の体制の概要

##### < 取締役会 >

当社の取締役会は、代表取締役会長 安藤之弘が議長を務めております。その他のメンバーは、代表取締役社長 瀬田大、取締役副社長 増田元廣、取締役副社長 山中雅文、専務取締役 三島敏雄、専務取締役 赤瀬雅之、常務取締役 池田浩照、社外取締役 田村均、社外取締役 加藤明彦、社外取締役 高木暢子の取締役10名（内、社外取締役3名）で構成されており、定例開催のほか随時臨時取締役会を開催し、経営計画等の重要事項を審議しております。

また、取締役会にはすべての監査役が出席し、取締役の業務執行の状況を監視できる体制となっております。

社外取締役は、監査役および内部監査室と定期的に会議を開催して監査状況等の情報を得るとともに、統括本部からリスク等が発生した際に報告することにより社外取締役の監督機能を活かせるよう連携しております。

また、本社部門として統括本部、オークション運営本部、システム本部を配置し、当社および子会社への経営サポートと内部統制の整備・運用を行っております。

##### < 監査役会 >

当社は、監査役会制度を採用しており、常勤監査役 尾崎信治が議長を務めております。その他のメンバーは、社外監査役 丹羽達、社外監査役 宮寺良一の監査役3名（内、社外監査役2名）で構成されており、定例開催のほか随時臨時監査役会を開催しております。また、監査役は取締役会に出席するほか、取締役の職務の執行その他会社の業務および財産の状況につき調査し、監査を行っております。そのほか内部監査室による各部門・事業所（子会社を含む）監査の充実に注力しております。

##### < 指名・報酬委員会 >

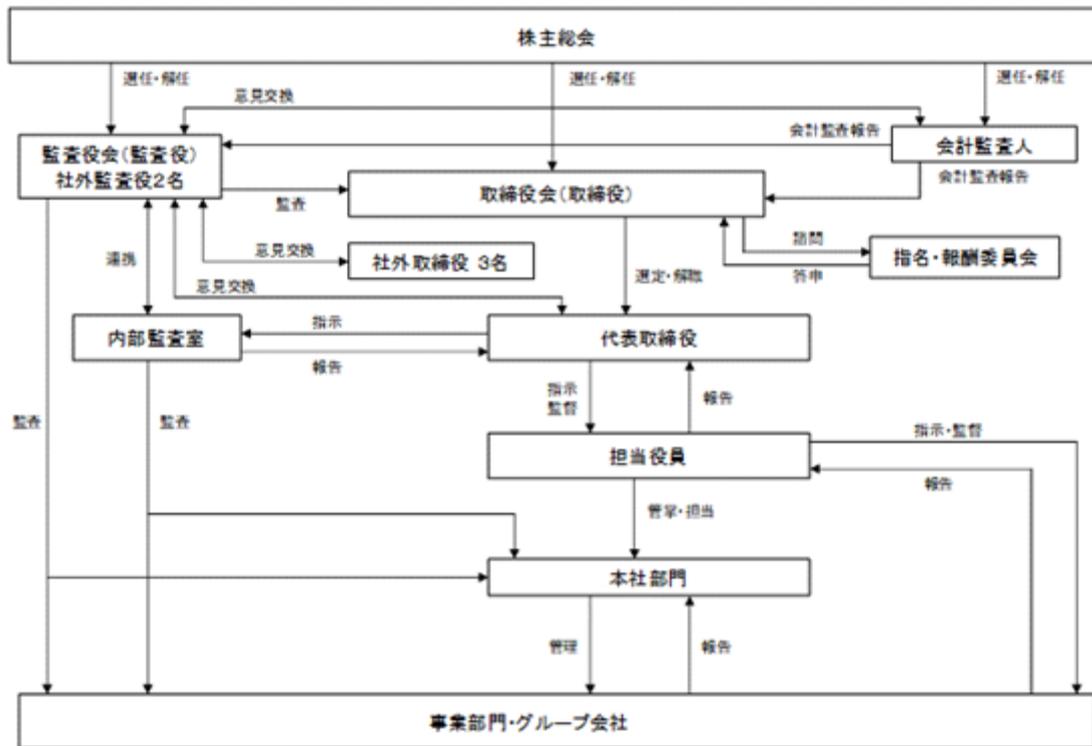
当社は、取締役候補者の指名および執行役員の選任ならびに取締役および執行役員の報酬水準の妥当性等を確保する観点から、取締役会の諮問機関として指名・報酬委員会を設置しております。指名・報酬委員会は、代表取締役会長 安藤之弘が委員長を務めており、その他のメンバーは、代表取締役社長 瀬田大、社外取締役 田村均、社外取締役 加藤明彦、社外取締役 高木暢子であります。なお、指名・報酬委員会で審議し、取締役会に答申を行う取締役会の上程議案は次のとおりであります。

- ・ 取締役候補者の指名および執行役員の選任
- ・ 取締役および執行役員の報酬に関する方針ならびに個人別の報酬の内容
- ・ 代表取締役および役付取締役の選定ならびに解職
- ・ 取締役および執行役員の解任

ロ．企業統治の体制を採用する理由

前項の体制を継続していくことで、公正で透明性の高い経営を行い、かつ、企業価値向上に努めることができると考え、現状のコーポレート・ガバナンス体制を採用しております。

当社の業務執行・監視の仕組みを図式化すると次のとおりです。



企業統治に関するその他の事項

イ．内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムといたしましては、内部統制の構築に関する基本方針（2006年5月16日制定、2015年5月13日改訂）に基づき、社内における運用面の徹底や仕組みそのものの見直しなどを行い、継続的な維持、改善を図っております。

ロ．リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、社内でのコンプライアンス体制と密接な関係があると考えており企業倫理意識の向上および法令遵守のため「U S S 行動・倫理規範」を定め、これを徹底するための「コンプライアンス・マニュアル」を制定するとともに社内研修等を実施し、法令、社会ルールの遵守と企業倫理の確立を図っております。

また、これに反する行為等を早期に発見し、是正するためにU S S グループ従業員を対象とした内部通報制度「U S S 企業倫理ヘルプライン」を開設し、運用しております。

当社のリスク管理体制は、オークション事業に関するリスクについてはオークション運営本部が、情報処理に関するリスクについてはシステム本部が、財務、人事および災害等に関するリスクについては統括本部が、社内外で発生した様々なリスクへの対応と再発防止に努めるとともに、担当取締役を通じて代表取締役社長に報告され、また経営に影響を与えるリスクについては、取締役会に報告される体制を整備しております。

## 八．責任限定契約の内容の概要

当社と全ての社外取締役および社外監査役とは、会社法第427条第1項ならびに当社定款第27条および第37条の規定に基づき、損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、400万円または法令が規定する額のいずれか高い額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

## 二．子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社の子会社の業務の適正を確保するため、当社の取締役および執行役員が子会社の役員に就任し、子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われていることを監督しております。また、当社は、子会社管理に関する規程として「関係会社管理規程」を定め、子会社における経営上の重要な意思決定等の事前承認事項に係る事前承認を行うなど、U S Sグループにおける業務執行の効率的なモニタリングを実施しております。

### 取締役の定数および選任の決議要件

当社の取締役は20名以内とする旨定款に定めておりましたが、2014年6月17日開催の第34期定時株主総会において、12名以内とする旨の定款変更を決議しております。

また、選任決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

### 株主総会の決議事項を取締役会で決議することができることとした事項とその理由

当社は、会社法第165条第2項の規定に従い、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、機動的な自己株式の取得を行うことを目的とするものであります。

また、半期ごとの安定的かつ継続的な株主への利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

### 株主総会の特別決議の要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

### その他

当社ウェブサイト上においては月次オークション実績の開示を行うほか、国内外のIR活動を積極的に推進するとともに、特に海外株主を対象とした英文招集通知を作成するなど国内株主との情報格差是正にも努め、経営の透明性を高めることを目指しております。

( 2 ) 【 役員の状況】

役員一覧

男性12名 女性1名 ( 役員のうち女性の比率7.7% )

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 ( 千株 )
代表取締役会長兼 最高経営責任者( CEO )	安藤 之弘	1946年12月2日生	1982年7月 当社取締役 1989年11月 当社専務取締役 1995年6月 当社取締役副社長 2000年6月 当社取締役副社長名古屋事業本部本部長 2006年6月 当社代表取締役社長 2007年6月 当社代表取締役社長兼最高経営責任者( CEO ) 2012年6月 当社代表取締役会長兼社長 2014年6月 当社代表取締役社長 2019年6月 当社代表取締役会長兼最高経営責任者( CEO )( 現任 )	( 注 ) 3	9,176
代表取締役社長兼 最高執行責任者( COO )	瀬田 大	1966年12月23日生	2004年1月 当社執行役員名古屋事業本部副本部長 2004年6月 当社取締役名古屋事業本部副本部長 2006年6月 当社代表取締役副社長オークション運営本部長兼名古屋事業本部長 2012年6月 当社代表取締役副社長オークション運営本部長 2015年6月 当社代表取締役副社長 2019年6月 当社代表取締役社長兼最高執行責任者( COO )( 現任 ) 〔他の法人等の代表状況〕 2008年6月 株式会社アビゾ代表取締役社長( 現任 )	( 注 ) 3	15,102
取締役副社長 東京会場長	増田 元廣	1947年12月27日生	1994年6月 株式会社ユー・エス・エス東京取締役 1995年1月 同社常務取締役 1996年1月 当社専務取締役 2001年6月 当社専務取締役東京事業本部副本部長 2006年6月 当社取締役副社長東京事業本部副本部長 2012年6月 当社取締役副社長埼玉会場長 2013年5月 当社取締役副社長東京・埼玉会場長 2014年10月 当社取締役副社長東京会場長( 現任 )	( 注 ) 3	302
取締役副社長 統括本部長	山中 雅文	1954年12月16日生	2000年1月 当社統括本部財務部長 2004年1月 当社執行役員統括本部財務部長 2004年6月 当社取締役統括本部財務部長 2006年6月 当社常務取締役統括本部長 2012年6月 当社専務取締役統括本部長 2016年6月 当社取締役副社長統括本部長( 現任 )	( 注 ) 3	31
専務取締役 九州会場長	三島 敏雄	1947年1月12日生	1989年7月 株式会社ユー・エス・エス九州取締役 1995年3月 当社取締役 1996年6月 当社常務取締役九州事業本部営業担当兼車両担当 2001年6月 当社常務執行役員 2003年3月 当社専務執行役員 2006年6月 当社専務取締役九州事業本部福岡会場担当 2012年6月 当社専務取締役福岡会場長 2013年3月 当社専務取締役九州・福岡会場長 2013年5月 当社専務取締役九州会場長( 現任 )	( 注 ) 3	705

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
専務取締役 オークション運営本部長	赤瀬 雅之	1962年11月8日生	2001年1月 当社名古屋事業本部営業部長 2004年1月 当社執行役員名古屋事業本部営業部長 2004年6月 当社取締役名古屋事業本部営業部長 2006年6月 当社常務取締役オークション運営本部 副本部長 2013年4月 当社常務取締役横浜会場長 2016年10月 当社常務取締役オークション運営本部 長 2017年6月 当社専務取締役オークション運営本部 長(現任)	(注)3	44
常務取締役	池田 浩照	1961年5月3日生	2001年1月 当社名古屋事業本部業務部長 2004年1月 当社執行役員名古屋事業本部業務部長 2004年6月 当社取締役名古屋事業本部業務部長 2006年6月 当社常務取締役システム本部長 2010年10月 当社常務取締役システム本部長兼東北 会場担当 2012年6月 当社常務取締役東北会場長 2015年4月 当社常務取締役大阪・神戸会場長 2018年4月 当社常務取締役(現任)	(注)3	38
取締役	田村 均	1946年6月11日生	1971年4月 株式会社リコー入社 2002年10月 株式会社リコー 審議役 2010年4月 リコージャパン株式会社 社長付顧問 2011年6月 株式会社リコー 審議役退任 リコージャパン株式会社 社長付顧問 退任 2011年7月 CS実践研究所 所長(現任) 2014年6月 当社取締役(現任) 2015年6月 株式会社キタムラ 社外取締役	(注)3	2
取締役	加藤 明彦	1947年6月18日生	1970年4月 日本銀行本店入行 1994年5月 同行 考査局考査役 1995年5月 同行退行 岐阜信用金庫 理事 1998年10月 同庫 常務理事 2007年6月 同庫 常任監事 2010年6月 同庫 常任監事退任 ぎふしん信用保証株式会社 常勤監査 役 2012年6月 同社 常勤監査役退任 2014年6月 当社取締役(現任)	(注)3	1

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	高木 暢子	1977年10月22日生	2002年10月 監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ)入所 2006年5月 公認会計士登録 2006年8月 税理士法人トーマツ(現 デロイトトーマツ税理士法人)入所 2007年11月 GCAサヴィアン株式会社(現 GCA株式会社)入社 2011年3月 日本電気株式会社入社 2016年10月 ガーディアン・アドバイザーズ株式会社 パートナー就任 2017年7月 高木暢子公認会計士事務所 代表(現任) 2017年7月 株式会社I-ne 社外監査役(現任) 2018年4月 株式会社COEING AND COMPANY 代表取締役(現任) 2018年6月 当社取締役(現任)	(注)3	0
常勤監査役	尾崎 信治	1956年1月28日生	1978年4月 名古屋国税局入局 2004年7月 帯広税務署 副署長 2011年7月 名古屋国税局調査部 広域情報管理課長 2012年7月 名古屋国税局調査部 調査管理課長 2014年7月 名古屋国税局調査部 次長 2015年7月 豊橋税務署 署長 2016年7月 名古屋国税局退官 2017年1月 当社内部監査室 顧問 2017年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)4	0
監査役	丹羽 達	1948年6月12日生	1971年8月 監査法人伊東会計事務所入所 1975年2月 公認会計士登録 1986年6月 監査法人伊東会計事務所社員 2007年8月 新日本監査法人(現EY新日本有限責任監査法人)社員 2010年8月 丹羽達公認会計士事務所所長(現任) 2013年6月 当社監査役(現任)	(注)4	-
監査役	宮崎 良一	1950年9月12日生	1975年10月 司法試験合格 1978年4月 名古屋弁護士会(現愛知県弁護士会)登録 1985年4月 中綜合法律事務所代表(現任) 1992年4月 名古屋弁護士会(現愛知県弁護士会)副会長 1997年3月 初穂商事株式会社 社外監査役(現任) 2009年10月 愛知紛争調整委員会 会長 2012年5月 愛知県弁護士協同組合 理事長 2013年6月 当社監査役(現任)	(注)4	-
計					25,404

- (注) 1. 略歴には、当社の完全子会社を除いたものを記載しております。  
2. 株式会社ユー・エス・エス九州は、1995年3月に当社と合併いたしました。  
株式会社ユー・エス・エス東京は、1996年1月に当社と合併いたしました。  
3. 取締役の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
4. 監査役の任期は、2017年3月期に係る定時株主総会終結の時から、2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
5. 取締役田村 均氏、加藤明彦氏、高木暢子氏の3名は、社外取締役であります。  
6. 監査役丹羽 達氏、宮崎良一氏の2名は、社外監査役であります。

## 社外役員の状況

当社の社外取締役は3名、社外監査役は2名であります。

社外取締役田村均氏につきましては、日本経営品質賞の主任審査員を長年務めた経営改善に関する豊富な経験とCS経営に関する幅広い知識を有しております。当社では、2014年6月の社外取締役就任以来、その知見を生かして経営全般について様々な助言をなされ企業価値向上に貢献いただいております。また、当社と同氏、同氏が兼務しておりますCS実践研究所との間に人的関係、資本的関係、取引関係、その他利害関係はありません。なお、同氏が2011年6月まで在籍しておりました株式会社リコーおよびリコーージャパン株式会社を含むリコーグループとの取引実績は、当期連結売上高の1%未満であります。また、リコーグループの当期連結売上高に占める当社との取引金額の割合は1%未満であります。当社として、リコーグループとの取引は軽微であり、独立して社外取締役としての職責を果たすことができるものと考えております。

社外取締役加藤明彦氏は、日本銀行での勤務経験や岐阜信用金庫の理事、常務理事としての企業経営経験を有しております。当社では、2014年6月の社外取締役就任以来、その知見を生かして経営全般について様々な助言をなされ企業価値向上に貢献いただいております。また、当社と同氏の間には人的関係、資本的関係、取引関係、その他利害関係はなく、独立して社外取締役としての職責を果たすことができるものと考えております。

社外取締役高木暢子氏は、公認会計士として、監査法人や税理士法人での勤務経験のほか、M&Aアドバイザー会社や事業会社においてM&Aの推進を担当するなど、財務および会計ならびにM&Aに関する豊富な経験と専門的な知識を有しております。当社では、2018年6月の社外取締役就任以来、その知見を生かして経営全般について様々な助言をなされ企業価値向上に貢献いただいております。また、当社と同氏、同氏が兼務しております高木暢子公認会計士事務所、株式会社I-ne、株式会社COEING AND COMPANYとの間に人的関係、資本的関係、取引関係、その他利害関係はありません。

なお、社外取締役田村均氏、加藤明彦氏および高木暢子氏は、当社株式を保有しておりますが、当社の発行済株式総数に占める割合は僅少であり、重要性はないものと判断しております。

社外監査役の丹羽達氏は、公認会計士としての豊富な経験と財務・会計に関する専門的な知識を有しております。また、当社と同氏、同氏が兼務しております丹羽達公認会計士事務所との間に人的関係、資本的関係、取引関係、その他利害関係はなく、独立して社外監査役としての職責を果たすことができるものと考えております。

社外監査役の宮寄良一氏は、弁護士としての豊富な経験と企業法務に関する知識を有しております。また、当社と同氏、同氏が兼務しております中綜合法律事務所、初穂商事株式会社との間に人的関係、資本的関係、取引関係、その他利害関係はなく、独立して社外監査役としての職責を果たすことができるものと考えております。

当社は、経営の透明性と公正性を確保するため、社外取締役3名を選任しております。社外取締役3名全員について、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外役員であると判断し、当社が上場する金融商品取引所に対し、独立役員として届け出ております。かかる独立取締役については、取締役会等における業務執行に係る決定局面等において、一般株主の利益への配慮がなされるよう必要な意見を述べる等、一般株主の利益保護のための行動をとることが期待されます。さらに、当社の監査役3名のうち、丹羽達、宮寄良一の両氏は、社外監査役であり、高い独立性を有していることから、独立役員として届け出ております。かかる独立監査役については、取締役会に出席するほか、取締役の職務の執行その他会社の業務および財産の状況につき十分に調査し、監査を行っております。

当社において、社外取締役および社外監査役を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、幅広い経験、専門的な見識等に基づく客観的かつ適切な監督または監査の機能および役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として、選任しております。

社外取締役または社外監査役による監督または監査と内部監査、監査役監査および会計監査との相互連携ならびに内部統制部門との関係

当社では、独立社外取締役および独立社外監査役の計5名の独立役員が、当社グループの持続的な成長や中長期的な企業価値の向上の観点から、代表取締役をはじめとする各取締役を監督し、統治機能の強化を図っています。また、取締役会の諮問機関として、代表取締役会長および独立社外取締役で構成される独立社外取締役が過半数を占める指名・報酬委員会を設置しております。

また、社外役員が独立した客観的な立場に基づき情報交換・認識共有を行うことの重要性を認識し、独立役員を構成員とする独立役員会議を定期的で開催しております。独立役員会議は、必要に応じ、社内役員等に対して、当該会議に出席して所要の説明等を行うよう求めております。また、当社は、独立役員と代表取締役等とのミーティングの機会を設けるなどの取組みを行っています。

当社は、会計監査や四半期レビューの報告等を通じ、外部会計監査人と監査役の連携を確保しています。また、監査役が外部会計監査人および社外取締役と随時必要な情報交換を行い、その内容を必要に応じて外部会計監査人または社外取締役との間で共有することにより、外部会計監査人と社外取締役の連携を確保しております。さらに、外部会計監査人は、内部監査部門と随時必要な情報交換や業務執行状況についての確認を行い、外部会計監査人が必要とする情報等の提供を受けています。

### (3)【監査の状況】

#### 監査役監査の状況

当社の監査役監査は、税理士、公認会計士、弁護士の監査役3名が取締役会、その他主要な会議に出席するほか、取締役の業務執行状況、財務状況などを監査しております。

なお、常勤監査役 尾崎信治氏は、税理士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。また、社外監査役 丹羽達氏は、公認会計士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

#### 内部監査の状況

当社の内部監査の組織といたしましては、内部監査室(3名)を独立した組織とし財務報告に係る内部統制の運用評価を含め機能強化に努めております。監査体制につきましては、内部監査室および会計監査人との連携を図り、子会社への実地監査を含め内部統制のより一層の充実を目指しております。

当社では、会社法および金融商品取引法に基づき、コンプライアンスや財務報告に係る内部統制システムを適切に整備するとともに、内部監査室において内部統制システムにかかる監査を行い、リスク発生の未然防止ならびにリスク管理に取り組む体制を構築しています。

また、内部監査室は、財務報告に係る内部統制が機能していることの監査・確認を行い、全社的な内部統制の状況および業務プロセスの適正性をモニタリングしています。

内部監査部門による監査において把握された業務執行に関する問題点等については、適宜、取締役や監査役へ報告がなされています。報告された問題点等に関する改善指導や是正状況についても、同様に内部監査部門と取締役や監査役との間で情報共有が図られています。

さらに、外部会計監査人は、内部監査部門と随時必要な情報交換や業務執行状況についての確認を行い、外部会計監査人が必要とする情報等の提供を受けています。

監査役会は、常勤監査役が中心となり、内部監査部門や関連部門と連携をとり、監査を行うとともに、必要な是正を求めています。

#### 会計監査の状況

##### イ. 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

##### ロ. 業務を執行した公認会計士

岡野 英生  
大橋 敦司

##### ハ. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、その他11名であります。

#### 二. 監査法人の選定方針と理由

監査役会は、会計監査人候補の評価に関する基準を定め、会計監査人の監査実施状況や監査報告等の確認を通じ、職務の実施状況の把握・評価を行っております。

また、監査役会は、会計監査人との意見交換や監査実施状況の確認等を通じて、会計監査人の独立性と専門性の有無について確認を行っております。なお、現在の当社会計監査人である有限責任 あずさ監査法人は、独立性・専門性ともに問題はないものと認識しています。

監査役会は、会計監査人の品質管理、独立性および信頼性その他職務の遂行に関する状況等を総合的に勘案し、再任または不再任の決定を行います。

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める事由に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨およびその理由を報告します。

ホ．監査役および監査役会による監査法人の評価

監査役会は、会計監査人の評価に関する基準を定め、監査法人に対して評価を行っております。この評価については、監査法人の品質管理、監査チームの構成、監査報酬、監査役等とのコミュニケーション、経営者等との関係、グループ監査、不正リスクなどの観点で行われており、現在の当社会計監査人である有限責任 あずさ監査法人は、いずれの点においても問題はないとの評価をしております。

- (注) 1．継続監査年数につきましては、全員7年以内であるため記載しておりません。  
2．有限責任 あずさ監査法人および当社監査を執行した公認会計士および補助者と当社の間には特別な利害関係はありません。

監査報酬の内容等

イ．監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	38	-	32	1
連結子会社	-	-	-	-
計	38	-	32	1

当社における非監査業務の内容は、資本コスト・政策保有株式評価に関するアドバイザリー業務であります。

ロ．監査公認会計士等と同一のネットワーク(KPMGネットワーク)に属する組織に対する報酬(イ.を除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	-	-	-	-
連結子会社	-	-	-	-
計	-	-	-	-

ハ．その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

二．監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定に際しては、監査公認会計士等の独立性を確保するため、監査日数を含む監査計画、当社の事業規模および特性等の要素を勘案したうえで、当社監査役会の同意に基づき適切に決定します。

ホ．監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、取締役、内部監査室その他の関係部署および会計監査人からの必要な資料の入手や報告の聴取を通じて、会計監査人の監査計画の内容、従前の事業年度における職務遂行状況や監査報酬見積もりの算出根拠等を確認し検討した結果、会計監査人の報酬等の額について適切と判断したためであります。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役の報酬は、役位ごとの役割の大きさや責任範囲等を踏まえて支給する月額報酬とします。また、取締役（社外取締役を除く）に対し、中長期的な業績に連動した自社株報酬として、株式報酬型ストックオプション（権利者が取締役、監査役および執行役員のいずれの地位をも喪失したことを行使条件とするもの）を付与します。なお、取締役の報酬については、その水準の妥当性および業績評価の透明性を確保する観点から、取締役会は、独立社外取締役が過半数を占める指名・報酬委員会に諮問し、同委員会の答申を踏まえて決定します。

取締役（社外取締役を除く）の報酬については、当社業績との連動性をより明確にし、中長期的な業績向上と企業価値向上への貢献意欲を一層高めることを目的に、報酬水準や報酬形態およびその割合等につき定期的に見直しを行います。

取締役の報酬等の額は、2006年6月28日開催の第26期定時株主総会において年額500百万円以内と決議いただいております。また、当社の取締役（社外取締役を除く。）に対する株式報酬型ストックオプションとして付与する新株予約権に関する報酬等の額は、2007年6月26日開催の第27期定時株主総会において、上記の取締役の報酬等の額とは別枠として年額150百万円以内と決議いただいております。したがって、取締役の報酬等の限度額は、合わせて年額650百万円以内であります。

監査役については、監査役の協議にて決定しており、高い独立性の観点から、月額報酬のみを支給することとしております。

監査役の報酬限度額は、2006年6月28日開催の第26期定時株主総会において年額50百万円以内と決議いただいております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬額等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストックオプション	
取締役 (社外取締役を除く)	271	217	54	7
監査役 (社外監査役を除く)	6	6	-	1
社外役員	24	24	-	6

(注) 1. 上記には、2018年6月12日開催の第38期定時株主総会終結の時をもって退任した社外取締役1名を含めております。

2. 使用人兼務役員はおりません。

報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等  
該当事項はありません。

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの  
該当事項はありません。

役員の報酬等の額の決定過程における取締役会および指名・報酬委員会の活動内容

取締役の報酬等の額の決定過程においては、取締役の報酬の水準の妥当性および業績評価の透明性を確保する観点から、取締役会は、独立社外取締役が過半数を占める指名・報酬委員会に諮問し、同委員会の答申を踏まえた上で決定しております。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準および考え方

当社は、投資株式について、時価の変動または配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式とし、事業戦略、取引関係などへの影響を総合的に勘案し、その保有が中長期的な観点から当社グループの業績に寄与すると認められたものを純投資目的以外の目的である投資株式として区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

イ．保有方針および保有の合理性を検証する方法ならびに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、年に1回、取締役会において個別の政策保有株式について、連結業績への寄与等を含む保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか、および事業戦略、取引関係などを勘案した場合にその保有目的が適切かの検証を行ない、検証の結果、保有の意義が認められない場合には、原則として売却します。

ロ．銘柄数および貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	2	43
非上場株式以外の株式	2	383

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	-	-

八．特定投資株式およびみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報  
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
株式会社エンピプロ・ホールディングス	360,000	360,000	(保有目的) 廃自動車等のリサイクル事業における協力関係の維持・強化のため (定量的な保有効果) (注)	無
	240	339		
株式会社バイク王&カンパニー	773,300	773,300	(保有目的) 取引関係ならびに協力関係の維持・強化のため (定量的な保有効果) (注)	無
	143	159		

(注) 当社は、特定投資株式における定量的な保有効果の記載が困難であるため、保有の合理性を検証した方法について記載をいたします。当社は、毎期、取締役会において個別の特定投資株式について、連結業績への寄与等を含む保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか、および事業戦略、取引関係などを勘案した場合にその保有目的が適切かの検証を行っております。2018年度については、2019年3月開催の取締役会において検証を行い、上記の特定投資株式については、いずれも保有の意義があると判断しております。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	-	-	-	-
非上場株式以外の株式	1	3	1	5

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(百万円)	売却損益の 合計額(百万円)	評価損益の 合計額(百万円)
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	0	-	2

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の連結財務諸表および事業年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	39,622	51,352
オークション貸勘定	1 18,846	1 16,502
受取手形及び売掛金	2,720	3,154
たな卸資産	2 829	2 1,038
前払費用	154	173
その他	665	5,255
貸倒引当金	61	44
流動資産合計	62,777	77,431
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	5, 7 37,555	5, 7 34,972
機械装置及び運搬具(純額)	5 785	966
工具、器具及び備品(純額)	5 2,426	5 2,194
土地	4, 5, 7 65,623	4, 5, 7 65,027
リース資産(純額)	83	116
建設仮勘定	33	1,610
有形固定資産合計	6 106,508	6 104,887
<b>無形固定資産</b>		
のれん	37,280	35,297
その他	7,536	7,061
無形固定資産合計	44,817	42,358
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	3 637	3 500
長期貸付金	443	43
長期前払費用	154	104
繰延税金資産	1,442	1,487
再評価に係る繰延税金資産	4 2,455	4 2,455
退職給付に係る資産	34	40
投資不動産(純額)	4, 6 2,810	4, 6 2,787
その他	703	1,142
貸倒引当金	493	535
投資その他の資産合計	8,188	8,025
固定資産合計	159,514	155,271
資産合計	222,292	232,703

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
オークション借勘定	1 22,339	1 22,209
支払手形及び買掛金	436	520
1年内返済予定の長期借入金	7 220	7 397
リース債務	12	41
未払法人税等	6,954	6,783
預り金	2,610	2,223
賞与引当金	685	722
その他	4,113	5,178
流動負債合計	37,373	38,077
固定負債		
長期借入金	7 3,330	7 2,640
リース債務	7	33
長期未払金	204	196
繰延税金負債	1,827	1,752
退職給付に係る負債	695	771
長期預り保証金	6,065	5,096
資産除去債務	598	600
固定負債合計	12,728	11,090
負債合計	50,102	49,168
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,881	18,881
資本剰余金	18,914	18,913
利益剰余金	185,835	198,940
自己株式	47,365	49,448
株主資本合計	176,266	187,287
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	141	60
土地再評価差額金	4 5,633	4 5,633
退職給付に係る調整累計額	6	15
その他の包括利益累計額合計	5,498	5,588
新株予約権	364	423
非支配株主持分	1,058	1,412
純資産合計	172,190	183,535
負債純資産合計	222,292	232,703

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	75,153	79,908
売上原価	2 29,174	2 31,391
売上総利益	45,979	48,516
販売費及び一般管理費	1 9,907	1 11,393
営業利益	36,071	37,123
営業外収益		
受取利息	13	8
受取配当金	10	310
不動産賃貸料	425	450
雑収入	232	220
営業外収益合計	681	990
営業外費用		
支払利息	10	11
不動産賃貸原価	47	47
雑損失	18	15
営業外費用合計	76	74
経常利益	36,676	38,039
特別利益		
固定資産売却益	3 32	3 151
投資有価証券売却益	77	-
関係会社株式売却益	-	319
その他	-	1
特別利益合計	109	472
特別損失		
固定資産売却損	4 7	4 131
固定資産除却損	5 83	5 26
その他	37	23
特別損失合計	128	181
税金等調整前当期純利益	36,657	38,330
法人税、住民税及び事業税	11,377	12,472
法人税等調整額	239	81
法人税等合計	11,617	12,391
当期純利益	25,039	25,938
非支配株主に帰属する当期純利益	753	395
親会社株主に帰属する当期純利益	24,285	25,543

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
当期純利益	25,039	25,938
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	94	80
退職給付に係る調整額	2	9
その他の包括利益合計	92	90
包括利益	25,132	25,848
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	24,378	25,453
非支配株主に係る包括利益	753	395

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	18,881	18,913	173,488	47,602	163,681
当期変動額					
剰余金の配当			11,878		11,878
親会社株主に帰属する当期純利益			24,285		24,285
自己株式の取得				0	0
自己株式の処分		1		236	238
土地再評価差額金の取崩			61		61
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	1	12,346	236	12,584
当期末残高	18,881	18,914	185,835	47,365	176,266

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	46	5,694	3	5,652	306	861	159,197
当期変動額							
剰余金の配当							11,878
親会社株主に帰属する当期純利益							24,285
自己株式の取得							0
自己株式の処分							238
土地再評価差額金の取崩							61
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	94	61	2	153	57	196	407
当期変動額合計	94	61	2	153	57	196	12,992
当期末残高	141	5,633	6	5,498	364	1,058	172,190

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	18,881	18,914	185,835	47,365	176,266
当期変動額					
剰余金の配当			12,438		12,438
親会社株主に帰属する当期純利益			25,543		25,543
自己株式の取得				2,359	2,359
自己株式の処分		1		276	275
土地再評価差額金の取崩					-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	1	13,105	2,082	11,021
当期末残高	18,881	18,913	198,940	49,448	187,287

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	141	5,633	6	5,498	364	1,058	172,190
当期変動額							
剰余金の配当							12,438
親会社株主に帰属する当期純利益							25,543
自己株式の取得							2,359
自己株式の処分							275
土地再評価差額金の取崩							-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	80	-	9	90	59	354	323
当期変動額合計	80	-	9	90	59	354	11,344
当期末残高	60	5,633	15	5,588	423	1,412	183,535

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	36,657	38,330
減価償却費及びその他の償却費	5,066	5,372
のれん償却額	1,033	1,983
貸倒引当金の増減額(は減少)	62	25
賞与引当金の増減額(は減少)	5	36
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	110	63
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	0	5
受取利息及び受取配当金	23	319
支払利息	10	11
投資有価証券売却損益(は益)	77	-
関係会社株式売却損益(は益)	-	319
有形固定資産除売却損益(は益)	58	6
無形固定資産除売却損益(は益)	0	0
オークション勘定の増減額	603	2,214
売上債権の増減額(は増加)	87	433
仕入債務の増減額(は減少)	37	83
預り金の増減額(は減少)	235	387
その他	838	760
小計	42,730	45,900
利息及び配当金の受取額	2,47	2,330
利息の支払額	11	11
法人税等の支払額	10,261	13,324
営業活動によるキャッシュ・フロー	32,505	32,894
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額(は増加)	21,000	-
有形固定資産の取得による支出	3,988	1,837
有形固定資産の売却による収入	56	633
無形固定資産の取得による支出	459	590
関係会社株式の売却による収入	-	339
投資有価証券の売却による収入	86	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	3 51,071	-
長期前払費用の取得による支出	67	22
その他	54	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	34,498	1,496

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	30	-
長期借入金の返済による支出	2 489	2 512
預り保証金の預りによる収入	146	302
預り保証金の返還による支出	75	1,230
自己株式の取得による支出	0	2,359
自己株式の売却による収入	2 265	2 284
自己株式取得のための金銭の信託の増減額 （は増加）	-	3,640
配当金の支払額	2 11,878	2 12,438
非支配株主への配当金の支払額	75	40
ファイナンス・リース債務の返済による支出	5	32
その他	19	0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>12,162</b>	<b>19,668</b>
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	14,155	11,729
現金及び現金同等物の期首残高	47,878	33,722
現金及び現金同等物の期末残高	1 33,722	1 45,452

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 9社

株式会社ユー・エス物流

株式会社U S Sサポートサービス

株式会社リプロワールド

株式会社ラビット・カーネットワーク

株式会社アビツ

株式会社U S Sロジスティクス・インターナショナル・サービス

株式会社ジャパンバイクオークション

株式会社ジェイ・イー・イー

株式会社H A A神戸

(2) 連結の範囲の変更

当社の連結子会社であった株式会社オークション・トランスポートは、2019年3月1日付けで当社の連結子会社である株式会社ジェイ・イー・イーを存続会社とする吸収合併により消滅しております。

当社の連結子会社である株式会社ジャパンバイクオークションが保有するPT.JBA Indonesiaの株式の一部を2019年2月15日付けで譲渡した結果、同社に対する議決権比率が33.4%になったため、同社を非連結子会社から関連会社としております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用する非連結子会社および関連会社はありません。

(2) 持分法を適用していない関連会社数 3社

PT.JBA Indonesia、株式会社プラ2プラおよびS B Iオートサポート株式会社であります。

この3社は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼさないため、持分法の適用範囲から除外しております。

なお、当社の関連会社であった株式会社インフォキャリアは、2019年3月25日付けで会社清算しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準および評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

たな卸資産

総平均法に基づく原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

ただし、車両については個別法に基づく原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)、リサイクル事業の製品については売価還元原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産および投資不動産（リース資産を除く）

定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）ならびに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 8～34年

機械装置及び運搬具 4～8年

工具、器具及び備品 4～10年

無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）、顧客関連資産については効果の及ぶ期間（14～15年）に基づく定額法によっております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、以下の方法により計上しております。

1) 一般債権

貸倒実績率法によっております。

2) 貸倒懸念債権および破産更生債権等

財務内容評価法によっております。

賞与引当金

従業員の賞与の支払いに備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異の会計処理方法

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) のれんの償却方法および償却期間

のれんは、その効果が及ぶ合理的な償却期間を見積り、5年または20年間で均等償却をしております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税および地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)および米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

その結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において「流動資産」の「繰延税金資産」が665百万円減少し、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」が576百万円増加しております。また、「固定負債」の「繰延税金負債」が88百万円減少しております。

なお、同一納税主体の繰延税金資産と繰延税金負債を相殺して表示しており、変更前と比べて総資産が88百万円減少しております。

(連結損益計算書)

1. 前連結会計年度において、費目別に独立掲記しておりました「販売費及び一般管理費」は、連結損益計算書の一覧性および明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「販売費及び一般管理費」として一括掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。
2. 前連結会計年度において、「営業外収益」の「雑収入」に含めていた「受取配当金」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記しております。これに伴い、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「雑収入」に表示していた242百万円は「受取配当金」10百万円、「雑収入」232百万円に組替えております。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数の変更)

当社の連結子会社である株式会社ジェイ・イー・イーは、当連結会計年度においてオークション会場の建替えおよびオークションシステムの入替を決定し、また、当社の連結子会社である株式会社H A A神戸は、当連結会計年度においてオークションシステムの入替を決定しております。これに伴い除却見込みとなる資産について耐用年数を建替および入替予定月までの期間に見直し、将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方と比べて、当連結会計年度の減価償却費が609百万円増加し、営業利益、経常利益および税金等調整前当期純利益が同額減少しております。

(追加情報)

信託型従業員持株インセンティブ・プランにおける会計処理

当社は、従業員の福利厚生の実現および当社の企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的として従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

信託型従業員持株インセンティブ・プラン

取引の概要

当社は、USSグループ従業員に対する当社の中長期的な企業価値向上へのインセンティブの付与を目的として、信託型従業員持株インセンティブ・プランを2017年3月より再導入しております。

信託型従業員持株インセンティブ・プランでは、当社が信託銀行に「USS従業員持株会専用信託」(以下、「従持信託」といいます。)を設定し、従持信託は、設定後3年間にわたり「USS従業員持株会」(以下、「持株会」といいます。)が取得すると見込まれる数の当社株式を市場より予め取得し、その後、信託終了まで毎月持株会へ売却します。なお、従持信託は当社株式を取得するための資金確保のため、当社保証による銀行借入を行っております。

信託終了時点において、持株会への当社株式の売却を通じて従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当社株式売却益相当額が信託残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。当社株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積した場合には、当該株式売却損相当の借入金残債について、責任財産限定特約付金銭消費貸借契約に基づき当社が弁済することになります。

信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額および株式数は、前連結会計年度496百万円、255千株、当連結会計年度223百万円、115千株であります。

総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

前連結会計年度470百万円、当連結会計年度177百万円

## (連結貸借対照表関係)

## 1. オークション貸勘定およびオークション借勘定

オークション貸勘定およびオークション借勘定は、オークション業務に関連して発生する会員に対する債権および債務であり、その主なものは、立替および預り車両代金、未収出品料収入、未収成約料収入および未収落札料収入であります。

なお、オークション貸勘定およびオークション借勘定残高は、連結会計年度末日とオークション開催日との関連によって増減いたします。

## 2. たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
商品及び製品	621百万円	803百万円
仕掛品	6	7
原材料及び貯蔵品	201	227

## 3. 非連結子会社および関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
投資有価証券(株式)	89百万円	69百万円

## 4. 土地の再評価

当社は、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、土地の再評価を行っております。当該評価差額にかかる税金相当額を「再評価に係る繰延税金資産」として資産の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める地方税法第341条第10号の土地課税台帳に登録されている価格に合理的な調整を行って算定する方法により算出しております。

再評価を行った年月日 2002年3月31日

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	726百万円	751百万円

## 5. 圧縮記帳額

国庫補助金等で取得した固定資産の圧縮記帳の適用に伴い、固定資産の取得価額から直接控除している圧縮記帳累計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
建物及び構築物	10百万円	10百万円
機械装置及び運搬具	0	-
工具、器具及び備品	3	3
土地	161	161

## 6. 減価償却累計額

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	44,239百万円	46,664百万円
投資不動産の減価償却累計額	434	457

7. 担保資産および担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
建物及び構築物	670百万円	613百万円
土地	2,696	2,696
計	3,366	3,309

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	220百万円	220百万円
長期借入金	2,860	2,640
計	3,080	2,860

(注) 当社の連結子会社である株式会社アビツの銀行借入に係る債務であります。

(連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
貸倒引当金繰入額	27百万円	69百万円
従業員給料及び賞与	2,606	2,619
賞与引当金繰入額	277	283
退職給付費用	117	124
減価償却費	473	682
のれん償却額	1,033	1,983

2. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	15百万円	25百万円

3. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	- 百万円	21百万円
機械装置及び運搬具	32	27
土地	-	102
計	32	151

4. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	0百万円	- 百万円
機械装置及び運搬具	-	0
土地	7	131
計	7	131

5. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	6百万円	4百万円
機械装置及び運搬具	0	0
工具、器具及び備品	17	5
無形固定資産(その他)	0	0
撤去費用	59	16
計	83	26

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額および税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	212百万円	116百万円
組替調整額	77	-
税効果調整前	135	116
税効果額	40	35
その他有価証券評価差額金	94	80
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	4	14
組替調整額	0	1
税効果調整前	3	13
税効果額	1	4
退職給付に係る調整額	2	9
その他の包括利益合計	92	90

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末株 式数(千株)
発行済株式				
普通株式	313,250	-	-	313,250
合計	313,250	-	-	313,250
自己株式				
当社が保有する普通株式	58,899	0	10	58,888
従持信託が保有する普通株式	373	-	117	255
合計	59,272	0	128	59,144

- (注) 1. 普通株式の自己株式の増加株式数の内訳は、単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。  
2. 普通株式の自己株式の減少株式数の内訳は、ストック・オプションの権利行使による減少10千株、従持信託による持株会への売却に伴う減少117千株であります。

2. 新株予約権および自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(千株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプションとして の新株予約権	-	-	-	-	-	364
	合計	-	-	-	-	-	364

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年6月13日 定時株主総会 (注)1	普通株式	5,900	23.20	2017年3月31日	2017年6月14日
2017年11月6日 取締役会 (注)2	普通株式	5,977	23.50	2017年9月30日	2017年12月13日

- (注) 1. 配当金の総額は、従持信託が保有する株主名簿上の当社株式380千株に対する配当金8百万円を含めて記載しております。  
2. 配当金の総額は、従持信託が保有する株主名簿上の当社株式320千株に対する配当金7百万円を含めて記載しております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月12日 定時株主総会	普通株式	6,180	利益剰余金	24.30	2018年3月31日	2018年6月13日

- (注) 配当金の総額は、従持信託が保有する株主名簿上の当社株式263千株に対する配当金6百万円を含めて記載しております。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（千株）	当連結会計年度増加 株式数（千株）	当連結会計年度減少 株式数（千株）	当連結会計年度末株 式数（千株）
発行済株式				
普通株式	313,250	-	-	313,250
合計	313,250	-	-	313,250
自己株式				
当社が保有する普通株式	58,888	1,175	4	60,059
従持信託が保有する普通株式	255	-	140	115
合計	59,144	1,175	145	60,174

（注）1. 普通株式の自己株式の増加株式数の内訳は、取締役会決議による自己株式の取得による増加1,175千株、単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

2. 普通株式の自己株式の減少株式数の内訳は、ストック・オプションの権利行使による減少4千株、従持信託による持株会への売却に伴う減少140千株であります。

2. 新株予約権および自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（千株）				当連結会計年度末残高（百万円）
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
提出会社（親会社）	ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	423
	合計	-	-	-	-	-	423

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
2018年6月12日 定時株主総会 （注）1	普通株式	6,180	24.30	2018年3月31日	2018年6月13日
2018年11月12日 取締役会 （注）2	普通株式	6,257	24.60	2018年9月30日	2018年12月12日

（注）1. 配当金の総額は、従持信託が保有する株主名簿上の当社株式263千株に対する配当金6百万円を含めて記載しております。

2. 配当金の総額は、従持信託が保有する株主名簿上の当社株式196千株に対する配当金4百万円を含めて記載しております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
2019年6月18日 定時株主総会	普通株式	6,532	利益剰余金	25.80	2019年3月31日	2019年6月19日

（注）配当金の総額は、従持信託が保有する株主名簿上の当社株式123千株に対する配当金3百万円を含めて記載しております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の連結会計年度末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	39,622百万円	51,352百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	5,900	5,900
現金及び現金同等物	33,722	45,452

2. 「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」の導入に伴い、連結キャッシュ・フロー計算書の各項目には従持信託に係るキャッシュ・フローを含めております。その主な内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
従持信託における利息及び配当金の受取額	16百万円	11百万円
従持信託への配当金の支払額	16	11
従持信託における自己株式の売却による収入	265	284
従持信託における長期借入金の返済による支出	269	292

3. 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産および負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

株式の取得により新たに株式会社ジェイ・イー・イーならびに同社の子会社である株式会社H A A神戸および株式会社オークション・トランスポートを連結の範囲に含めたことに伴う、連結開始時の資産および負債ならびに株式会社ジェイ・イー・イーの株式の取得価額と連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	9,336百万円
固定資産	17,639
のれん	38,001
流動負債	5,629
固定負債	3,850
非支配株主持分	481
株式の取得価額	55,979
新規連結子会社の現金及び現金同等物の残高	4,907
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	51,071

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年内	532	507
1年超	36	-
合計	569	507

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

U S Sグループは、資金運用については余資の範囲内で行い、安全性の高い金融資産で運用しております。また、設備投資計画に照らして必要な資金を銀行借入により調達します。デリバティブは資金調達または運用における金利変動等のリスクを回避することを目的とするものに限定し、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権であるオークション貸勘定は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理および残高管理をするとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

投資有価証券は株式であり、純投資目的および事業推進目的で保有しております。これらは、それぞれ発行体の信用リスクおよび金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されていますが、定期的に時価や発行体の状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

営業債務であるオークション借勘定は、短期間に支払期日が到来するものであります。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるもの（（注）2.参照）および重要性が乏しいものは含めておりません。

前連結会計年度（2018年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	39,622	39,622	-
(2) オークション貸勘定	18,846	18,846	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	504	504	-
資産計	58,973	58,973	-
(1) オークション借勘定	22,339	22,339	-
負債計	22,339	22,339	-

当連結会計年度（2019年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	51,352	51,352	-
(2) オークション貸勘定	16,502	16,502	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	387	387	-
資産計	68,242	68,242	-
(1) オークション借勘定	22,209	22,209	-
負債計	22,209	22,209	-

（注）1. 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

これらは全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) オークション貸勘定

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

株式の時価は取引所の価格によっております。

保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負 債

(1) オークション借勘定

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
子会社株式および関連会社株式	89百万円	69百万円
非上場株式	43百万円	43百万円

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	39,622	-	-	-
オークション貸勘定	18,846	-	-	-
合計	58,469	-	-	-

当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	51,352	-	-	-
オークション貸勘定	16,502	-	-	-
合計	67,854	-	-	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	344	133	211
	(2) 債券	-	-	-
	小計	344	133	211
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	159	168	9
	(2) 債券	-	-	-
	小計	159	168	9
合計		504	301	202

(注) 1. 上記の表中にある「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。

2. 保有目的が変更になった有価証券はありません。

3. 非上場株式(連結貸借対照表計上額43百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」に含めておりません。

当連結会計年度(2019年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	244	133	110
	(2) 債券	-	-	-
	小計	244	133	110
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	143	168	24
	(2) 債券	-	-	-
	小計	143	168	24
合計		387	301	86

(注) 1. 上記の表中にある「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。

2. 保有目的が変更になった有価証券はありません。

3. 非上場株式(連結貸借対照表計上額43百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」に含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	86	77	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	86	77	-

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当連結会計年度中に売却したその他有価証券はありません。

## (退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社および連結子会社5社は、非積立型の確定給付の制度として退職一時金制度を採用しております。また、当社および連結子会社5社は確定拠出年金制度を採用しております。連結子会社1社は、積立型の確定給付の制度として、確定給付企業年金制度を採用しております。連結子会社1社は、確定拠出型の中小企業退職金共済制度を採用しております。

連結子会社5社が有する確定給付型の退職一時金制度および確定給付企業年金制度は、簡便法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しております。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表( (2)に掲げられた簡便法を適用した制度を除く )

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	227百万円	320百万円
勤務費用	97	96
利息費用	0	0
数理計算上の差異の発生額	4	14
退職給付の支払額	9	12
退職給付債務の期末残高	320	419

## (2) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	140百万円	374百万円
新規連結による増加額	212	-
退職給付費用	43	62
退職給付の支払額	22	84
退職給付に係る負債の期末残高	374	352
退職給付に係る資産の期首残高	-	34
新規連結による増加額	34	-
退職給付費用	8	11
制度への拠出額	9	17
退職給付に係る資産の期末残高	34	40

## (3) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	212百万円	209百万円
年金資産	247	249
	34	40
非積立型制度の退職給付債務	695	771
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	660	731
退職給付に係る負債	695	771
退職給付に係る資産	34	40
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	660	731

(4) 退職給付費用およびその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	97百万円	96百万円
利息費用	0	0
数理計算上の差異の費用処理額	0	1
簡便法で計算した退職給付費用	52	74
確定給付制度に係る退職給付費用	151	171

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
数理計算上の差異	3百万円	13百万円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
未認識数理計算上の差異	8百万円	22百万円

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
割引率	0.2%	0.0%

3. 確定拠出制度

当社および連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は前連結会計年度122百万円、当連結会計年度125百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る当連結会計年度における費用計上額および科目名

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
販売費及び一般管理費	67	61

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業外収益の雑収入	0	-

3. スtock・オプションの内容、規模およびその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第5回新株予約権	第6回新株予約権	第7回新株予約権	第8回新株予約権
決議年月日	2007年8月28日	2008年6月25日	2009年6月24日	2010年6月29日
付与対象者の区分および人数	当社取締役(社外取締役を除く) 14名	当社取締役(社外取締役を除く) 14名	当社取締役(社外取締役を除く) 14名	当社取締役(社外取締役を除く) 14名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1	普通株式 71,400株	普通株式 83,800株	普通株式 145,200株	普通株式 99,900株
付与日	2007年9月14日	2008年7月10日	2009年7月9日	2010年7月15日
権利確定条件	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)の地位を有していること。	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)の地位を有していること。	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)の地位を有していること。	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)の地位を有していること。
対象勤務期間	対象勤務期間は定めておりません。	対象勤務期間は定めておりません。	対象勤務期間は定めておりません。	対象勤務期間は定めておりません。
権利行使期間	自 2007年9月15日 至 2032年6月30日	自 2008年7月11日 至 2033年6月30日	自 2009年7月10日 至 2034年6月30日	自 2010年7月16日 至 2035年6月30日
新株予約権の数(個)	347	404	698	487
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び株式数	普通株式 34,700株	普通株式 40,400株	普通株式 69,800株	普通株式 48,700株
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	1	1	1
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額	(注)2	(注)2	(注)2	(注)2
新株予約権の行使の条件	(注)3	(注)3	(注)3	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	当社取締役会の承認を要する。	当社取締役会の承認を要する。	当社取締役会の承認を要する。	当社取締役会の承認を要する。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	(注)5	(注)5	(注)5

	第9回新株予約権	第10回新株予約権	第11回新株予約権	第12回新株予約権
決議年月日	2011年6月28日	2012年6月26日	2013年6月25日	2014年6月17日
付与対象者の区分および人数	当社取締役(社外取締役を除く) 14名	当社取締役(社外取締役を除く) 10名 当社執行役員 4名	当社取締役(社外取締役を除く) 8名 当社執行役員 8名	当社取締役(社外取締役を除く) 7名 当社執行役員 7名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1	普通株式 121,000株	普通株式 83,400株	普通株式 49,000株	普通株式 25,800株
付与日	2011年7月14日	2012年7月12日	2013年7月12日	2014年7月4日
権利確定条件	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)の地位を有していること。	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)もしくは執行役員の地位を有していること。	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)もしくは執行役員の地位を有していること。	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)もしくは執行役員の地位を有していること。
対象勤務期間	対象勤務期間は定めておりません。	対象勤務期間は定めておりません。	対象勤務期間は定めておりません。	対象勤務期間は定めておりません。
権利行使期間	自 2011年7月15日 至 2036年6月30日	自 2012年7月13日 至 2037年6月30日	自 2013年7月13日 至 2038年6月30日	自 2014年7月5日 至 2039年6月30日
新株予約権の数(個)	605	518	365	240
新株予約権の目的となる株式の種類、内容および株式数	普通株式 60,500株	普通株式 51,800株	普通株式 36,500株	普通株式 24,000株
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	1	1	1
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額	(注)2	(注)2	(注)2	(注)2
新株予約権の行使の条件	(注)3	(注)3	(注)3	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	当社取締役会の承認を要する。	当社取締役会の承認を要する。	当社取締役会の承認を要する。	当社取締役会の承認を要する。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	(注)5	(注)5	(注)5

	第13回新株予約権	第14回新株予約権	第15回新株予約権	第16回新株予約権
決議年月日	2015年6月16日	2016年6月14日	2017年6月13日	2018年6月12日
付与対象者の区分および人数	当社取締役(社外取締役を除く) 7名 当社執行役員 5名	当社取締役(社外取締役を除く) 7名 当社執行役員 5名	当社取締役(社外取締役を除く) 7名 当社執行役員 4名	当社取締役(社外取締役を除く) 7名 当社執行役員 3名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1	普通株式 23,400株	普通株式 32,400株	普通株式 34,000株	普通株式 34,400株
付与日	2015年7月3日	2016年7月1日	2017年6月30日	2018年7月5日
権利確定条件	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)もしくは執行役員の地位を有していること。	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)もしくは執行役員の地位を有していること。	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)もしくは執行役員の地位を有していること。	付与日に当社の取締役(社外取締役を除く。)もしくは執行役員の地位を有していること。
対象勤務期間	対象勤務期間は定めておりません。	対象勤務期間は定めておりません。	対象勤務期間は定めておりません。	対象勤務期間は定めておりません。
権利行使期間	自 2015年7月4日 至 2040年6月30日	自 2016年7月2日 至 2041年6月30日	自 2017年7月13日 至 2042年6月29日	自 2018年7月6日 至 2043年6月30日
新株予約権の数(個)	224	307	330	344
新株予約権の目的となる株式の種類、内容および株式数	普通株式 22,400株	普通株式 30,700株	普通株式 33,000株	普通株式 34,400株
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	1	1	1
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額	(注)2	(注)2	(注)2	(注)2
新株予約権の行使の条件	(注)3	(注)3	(注)3	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	当社取締役会の承認を要する。	当社取締役会の承認を要する。	当社取締役会の承認を要する。	当社取締役会の承認を要する。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	(注)5	(注)5	(注)5

当連結会計年度末における内容を記載しております。なお、有価証券報告書提出日の属する月の前月末(2019年5月31日)現在において、これらの事項に変更はありません。

(注)1. 株式数に換算して記載しております。

2. 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金は次のとおりです。

(1) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。

(2) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

3. 新株予約権の行使の条件は次のとおりです。

(1) 新株予約権者は、当社の取締役(指名委員会等設置会社における執行役を含む。)、監査役および執行役員のいずれの地位をも喪失した場合に限り、新株予約権を行使できるものとする。ただし、この場合、新株予約権者は、上記のいずれの地位をも喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から10日を経過する日までの間に限り、募集新株予約権を行使することができる。

(2) 新株予約権者が募集新株予約権を放棄した場合には、かかる募集新株予約権を行使することができないものとする。

4. 当社は、2017年2月15日付けで、第5回新株予約権ないし第14回新株予約権の保有者である全ての取締役および執行役員（退任した者を除きます。）との間で新株予約権の割当契約書の変更を行い、各新株予約権の行使条件につき、権利行使開始日から「5年を経過する日までの間に限り、募集新株予約権を行使することができる」としていた点を、上記（注）3.（1）のとおり、同日から「10日を経過する日までの間」に変更しております。
5. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項は次のとおりです。  
当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生じる日、新設合併につき新設合併設立株式会社成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生じる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生じる日、および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する募集新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、本新株予約権の発行要領に準じた条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。
6. 2013年8月5日開催の取締役会決議により、2013年10月1日付けで普通株式1株を10株とする株式分割を行っております。これにより、「株式の種類別のストック・オプションの数」および「新株予約権の目的となる株式数」が調整されております。

（追加情報）

「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況 ストックオプション制度の内容」に記載すべき事項をストック・オプション等関係注記に集約して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模およびその変動状況

当連結会計年度(2019年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第5回新株予約権	第6回新株予約権	第7回新株予約権	第8回新株予約権	第9回新株予約権
権利確定前 (株)					
前連結会計年度末	-	-	-	-	-
付与	-	-	-	-	-
失効	-	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-	-
未確定残	-	-	-	-	-
権利確定後 (株)					
前連結会計年度末	34,700	40,400	69,800	51,000	62,500
権利確定	-	-	-	-	-
権利行使	-	-	-	2,300	2,000
失効	-	-	-	-	-
未行使残	34,700	40,400	69,800	48,700	60,500

	第10回新株予約権	第11回新株予約権	第12回新株予約権	第13回新株予約権	第14回新株予約権
権利確定前 (株)					
前連結会計年度末	-	-	-	-	-
付与	-	-	-	-	-
失効	-	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-	-
未確定残	-	-	-	-	-
権利確定後 (株)					
前連結会計年度末	51,800	36,500	24,000	22,400	30,700
権利確定	-	-	-	-	-
権利行使	-	-	-	-	-
失効	-	-	-	-	-
未行使残	51,800	36,500	24,000	22,400	30,700

	第15回新株予約権	第16回新株予約権
権利確定前 (株)		
前連結会計年度末	-	-
付与	-	34,400
失効	-	-
権利確定	-	34,400
未確定残	-	-
権利確定後 (株)		
前連結会計年度末	33,000	-
権利確定	-	34,400
権利行使	-	-
失効	-	-
未行使残	33,000	34,400

(注) 2013年10月1日付けで普通株式1株につき10株の割合をもって行った株式分割による分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	第5回新株予約権	第6回新株予約権	第7回新株予約権	第8回新株予約権	第9回新株予約権
権利行使価格(円)	1	1	1	1	1
行使時平均株価(円)	-	-	-	1,875	1,875
付与日における公正な評価単価(円)	646	498	327	459	436

	第10回新株予約権	第11回新株予約権	第12回新株予約権	第13回新株予約権	第14回新株予約権
権利行使価格(円)	1	1	1	1	1
行使時平均株価(円)	-	-	-	-	-
付与日における公正な評価単価(円)	586	936	1,374	1,795	1,465

	第15回新株予約権	第16回新株予約権
権利行使価格(円)	1	1
行使時平均株価(円)	-	-
付与日における公正な評価単価(円)	1,995	1,785

(注) 2013年10月1日付け株式分割(普通株式1株につき10株の割合)による分割後の価格に換算して記載しております。

4. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与された第16回新株予約権についての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

使用した評価技法                      ブラック・ショールズ式  
主な基礎数値および見積方法

	第16回新株予約権
株価変動性(注)1	26.682%
予想残存期間(注)2	5.4年
予想配当(注)3	47.8円/株
無リスク利率(注)4	0.102%

- (注) 1. 年率、過去5.4年の日次株価(2013年2月5日から2018年7月5日までの各取引日における終値)に基づき算定しております。  
2. オプションの満期までの期間に代えて、付与日から権利行使されると見込まれる平均的な時期までの期間を用いております。  
3. 過去1年間の配当実績によっております。  
4. 年率、2018年7月5日の国債利回り(残存期間:5.4年)であります。

5. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 ( 2018年 3月31日 )	当連結会計年度 ( 2019年 3月31日 )
<b>繰延税金資産</b>		
賞与引当金損金算入限度超過額	213百万円	224百万円
未払事業税否認	353	337
未払金否認	76	73
株式報酬費用否認	110	128
退職給付に係る負債否認	207	232
役員退職慰労金否認	54	54
投資有価証券評価損否認	33	17
減損損失否認	303	224
資産除去債務	149	182
その他	311	426
繰延税金資産小計	1,814	1,902
評価性引当額	1	91
繰延税金資産合計	1,813	1,811
繰延税金負債との相殺	370	323
繰延税金資産の純額	1,442	1,487
<b>繰延税金負債</b>		
その他有価証券評価差額金	61	26
資産除去債務	45	72
特別償却準備金	54	36
連結子会社の時価評価差額	2,023	1,898
その他	13	42
繰延税金負債合計	2,198	2,076
繰延税金資産との相殺	370	323
繰延税金負債の純額	1,827	1,752

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 ( 2018年 3月31日 )	当連結会計年度 ( 2019年 3月31日 )
法定実効税率	- %	30.3%
( 調整 )		
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	0.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	0.4
住民税均等割	-	0.1
のれん償却額	-	1.6
評価性引当額	-	0.2
その他	-	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	32.3

( 注 ) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(企業結合等関係)

(共通支配下の取引等)

共通支配下の取引等に重要性が無いため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

U S Sグループの報告セグメントは、当社および連結子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

U S Sグループは、オートオークション運営およびオークションに係る各種サービスの提供、中古自動車等の買取販売、リサイクル事業などを展開しており、事業内容ごとに戦略を立案し、事業を行っております。

したがって、U S Sグループは事業内容等を基礎としてセグメントを構成しており、「オートオークション」、「中古自動車等買取販売」の2つを報告セグメントとしております。

「オートオークション」は中古車取扱事業者を会員とするオートオークションの運営、中古二輪車取扱事業者を会員とするバイクオークションの運営、衛星TV回線およびインターネットによるオートオークション接続サービス、中古自動車情報サービスの提供、オートオークションの出品車・落札車の陸送取次、オートオークション会員向け金融サービスの提供を主な事業としております。

「中古自動車等買取販売」は中古自動車および事故現状車の買取販売を主な事業としております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益および振替高は、市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	オートオーク ション	中古自動車 等買取販売	計				
売上高							
外部顧客への売上高	59,521	9,827	69,348	5,805	75,153	-	75,153
セグメント間の 内部売上高または 振替高	503	0	504	21	526	526	-
計	60,025	9,827	69,852	5,827	75,679	526	75,153
セグメント利益	35,131	171	35,303	665	35,968	103	36,071
セグメント資産	215,021	2,081	217,103	6,781	223,885	1,593	222,292
その他の項目							
減価償却費	4,479	38	4,518	437	4,955	27	4,983
のれんの償却額	1,033	-	1,033	-	1,033	-	1,033
有形固定資産および 無形固定資産の増加額 (注) 4	3,017	57	3,074	369	3,444	1	3,445

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、株式会社アピゾの廃自動車等のリサイクル事業および株式会社U S S ロジスティクス・インターナショナル・サービスの中古自動車の輸出手続代行サービス事業等であります。

2. 「調整額」は、以下のとおりであります。
- (1) セグメント利益の調整額103百万円は、セグメント間取引消去であります。
- (2) セグメント資産の調整額 1,593百万円は、セグメント間資産負債消去であります。
3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 「有形固定資産および無形固定資産の増加額」には、新規連結に伴う増加額を含めておりません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	オートオー クション	中古自動車 等買取販売	計				
売上高							
外部顧客への売上高	64,684	9,701	74,385	5,522	79,908	-	79,908
セグメント間の内部売上高または振替高	456	0	456	36	493	493	-
計	65,141	9,701	74,842	5,559	80,401	493	79,908
セグメント利益	36,323	116	36,440	583	37,023	99	37,123
セグメント資産	225,269	2,145	227,415	6,805	234,220	1,516	232,703
その他の項目							
減価償却費	4,783	42	4,826	451	5,277	21	5,299
のれんの償却額	1,983	-	1,983	-	1,983	-	1,983
有形固定資産および無形固定資産の増加額	3,081	53	3,135	712	3,847	-	3,847

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、株式会社アビツの廃自動車等のリサイクル事業および株式会社U S S ロジスティクス・インターナショナル・サービスの中古自動車の輸出手続代行サービス事業等であります。

2. 「調整額」は、以下のとおりであります。
- (1) セグメント利益の調整額99百万円は、セグメント間取引消去であります。
- (2) セグメント資産の調整額 1,516百万円は、セグメント間資産負債消去であります。
3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】  
前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:百万円)

	オート オークション	中古自動車等 買取販売	その他	全社・消去	合計
当期償却額	1,033	-	-	-	1,033
当期末残高	37,280	-	-	-	37,280

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	オート オークション	中古自動車等 買取販売	その他	全社・消去	合計
当期償却額	1,983	-	-	-	1,983
当期末残高	35,297	-	-	-	35,297

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】  
該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員および主要株主等

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	会社等の名称または氏名	所在地	資本金または出資金(百万円)	事業の内容または職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
当社代表取締役安藤之弘が議決権の過半数を所有している会社	株式会社昭和	愛知県名古屋市長区	10	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	12	オークション借勘定	0
当社代表取締役瀬田大の近親者が議決権の過半数を所有している会社	株式会社服部モータース	愛知県東海市	50	自動車販売業	(被所有) 直接 2.8	オークション取引	オークション関連取引	109	オークション借勘定 受取手形及び売掛金	111 0
当社取締役増田元廣が議決権の過半数を所有している会社	株式会社マスタオート	埼玉県三郷市	10	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	40	オークション貸勘定 受取手形及び売掛金	9 0
当社取締役三島敏雄が議決権の過半数を所有している会社	株式会社メトコス	福岡県粕屋郡	13	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	58	オークション借勘定 長期預り保証金 受取手形及び売掛金	34 0 0
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社東部オート	群馬県高崎市	20	自動車販売業	(被所有) 直接 0.1	オークション取引	オークション関連取引	8	オークション貸勘定 長期預り保証金 受取手形及び売掛金	13 0 0
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社Links	群馬県高崎市	10	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	33	オークション借勘定	5
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社スカイライン	埼玉県所沢市	8	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	39	オークション借勘定 長期預り保証金	21 0
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社クインオート	兵庫県篠山市	50	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	17	オークション貸勘定 長期預り保証金 受取手形及び売掛金	6 0 0
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社プログレス	兵庫県篠山市	5	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	17	長期預り保証金	0
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社モトーレン阪神	兵庫県西宮市	50	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	10	オークション貸勘定	18
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社ジェイボーイ	大阪府箕面市	10	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	65	オークション借勘定 長期預り保証金 受取手形及び売掛金	91 0 0

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方法

オークション関連取引については、会場毎に定めた取引価格または取引先と協議のうえ定めた契約等に基づいた取引価額によっております。

2. 取引の内容欄における「オークション関連取引」については、出品手数料、成約手数料、落札手数料およびその他のオークション関連取引を記載しております。

3. 株式会社東部オートおよび株式会社Linksについては、当社の連結子会社である株式会社ラビット・カーネットワークおよび株式会社リプロワールドの代表取締役新井栄一氏が議決権の過半数を所有しております。なお、同氏は2017年11月30日に株式会社ラビット・カーネットワークおよび株式会社リプロワールドの代表取締役を退任したため、株式会社東部オートおよび株式会社Linksの取引金額は退任日までの取引金額を、期末残高は退任日時点の残高を記載しております。

4. 株式会社スカイライン、株式会社クインオート、株式会社プログレス、株式会社モトーレン阪神および株式会社ジェイボーイについては、当社の連結子会社である株式会社ジェイ・エー・エーの代表取締役田畑利彦氏が議決権の過半数を所有しております。なお、同氏は2018年2月28日に株式会社ジェイ・エー・エーの代表取締役を退任したため、株式会社スカイライン、株式会社クインオート、株式会社プログレス、株式会社モトーレン阪神および株式会社ジェイボーイの取引金額は、2017年10月1日から退任日までの取引金額を、期末残高は退任日時点の残高を記載しております。
5. 取引金額には消費税等を含めておらず、期末残高には消費税等を含めております。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	会社等の名称または氏名	所在地	資本金または出資金(百万円)	事業の内容または職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
当社代表取締役安藤之弘が議決権の過半数を所有している会社	株式会社昭和	愛知県名古屋市長区	10	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	16	オークション借勘定	1
当社代表取締役瀬田大の近親者が議決権の過半数を所有している会社	株式会社服部モータース	愛知県東海市	50	自動車販売業	(被所有) 直接 2.8	オークション取引	オークション関連取引	9	オークション借勘定 受取手形及び売掛金	141 0
当社取締役増田元廣が議決権の過半数を所有している会社	株式会社マスタオート	埼玉県三郷市	10	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	39	オークション貸勘定 受取手形及び売掛金	6 0
当社取締役三島敏雄が議決権の過半数を所有している会社	株式会社メトコス	福岡県粕屋郡	13	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	55	オークション借勘定 長期預り保証金 受取手形及び売掛金	28 0 0

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方法

オークション関連取引については、会場毎に定めた取引価格または取引先と協議のうえ定めた契約等に基づいた取引価額によっております。

2. 取引の内容欄における「オークション関連取引」については、出品手数料、成約手数料、落札手数料およびその他のオークション関連取引を記載しております。
3. 株式会社服部モータースについては、2018年4月30日に関連当事者ではなくなったため、同社の取引金額は関連当事者であった期間の取引金額を、期末残高は関連当事者でなくなった時点の残高を記載しております。
4. 取引金額には消費税等を含めておらず、期末残高には消費税等を含めております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員および主要株主等

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	会社等の名称または氏名	所在地	資本金または出資金(百万円)	事業の内容または職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
当社代表取締役瀨田大の近親者が議決権の過半数を所有している会社	株式会社HMグループ	愛知県名古屋市昭和区	6	自動車販売業	-	ラビット加盟店	フランチャイズ取引	22	受取手形及び売掛金 長期預り保証金	0 0
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社Links	群馬県高崎市	10	自動車販売業	-	ラビット加盟店	フランチャイズ取引	23	受取手形及び売掛金 その他(流動負債)	0 11
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社クインオート	兵庫県篠山市	50	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	113	その他(流動資産) オークション借勘定	0 152
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	オートバリュー株式会社	兵庫県神戸市東灘区	8	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	25	オークション借勘定	32
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社Safari	兵庫県神戸市東灘区	100	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	24	受取手形及び売掛金 オークション貸勘定 オークション借勘定	9 5 0
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社クラモチオートサービス	兵庫県篠山市	40	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	27	オークション貸勘定 オークション借勘定	19 35
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	クイック・ネットワーク株式会社	兵庫県神戸市東灘区	100	貨物自動車陸送サービス業	-	オークション取引	オークション関連取引	12	受取手形及び売掛金	2
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	有限会社GRAND WAY	大阪府堺市堺区	9	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	16	オークション借勘定	33

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方法

フランチャイズ取引については、一般取引先と同一の条件によっております。

オークション関連取引については、会場毎に定めた取引価格または取引先と協議のうえ定めた契約等に基づいた取引価額によっております。

- 取引の内容欄における「オークション関連取引」については、出品手数料、成約手数料、落札手数料およびその他のオークション関連取引を記載しております。
- 株式会社Linksについては、当社の連結子会社である株式会社ラビット・カーネットワークおよび株式会社リプロワールドの代表取締役新井栄一氏が議決権の過半数を所有しております。なお、同氏は2017年11月30日に株式会社ラビット・カーネットワークおよび株式会社リプロワールドの代表取締役を退任したため、株式会社Linksの取引金額は退任日までの取引金額を、期末残高は退任日時時点の残高を記載しております。
- 株式会社クインオート、オートバリュー株式会社、株式会社Safari、株式会社クラモチオートサービス、クイック・ネットワーク株式会社および有限会社GRAND WAYについては、当社の連結子会社である株式会社ジェイ・エー・エーの代表取締役田畑利彦氏が議決権の過半数を所有しております。なお、同氏は2018年2月28日に株式会社ジェイ・エー・エーの代表取締役を退任したため、株式会社クインオート、オートバリュー株式会社、株式会社Safari、株式会社クラモチオートサービス、クイック・ネットワーク株式会社および有限会社GRAND WAYの取引金額は、2017年10月1日から退任日までの取引金額を、期末残高は退任日時時点の残高を記載しております。
- 取引金額には消費税等を含めておらず、期末残高には消費税等を含めております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称または氏名	所在地	資本金または出資金(百万円)	事業の内容または職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
当社取締役増田元廣が議決権の過半数を所有している会社	株式会社マスタオート	埼玉県三郷市	10	自動車販売業	-	オークション取引	オークション関連取引	4	受取手形及び売掛金	0
									オークション貸勘定	19

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方法

オークション関連取引については、会場毎に定めた取引価格または取引先と協議のうえ定めた契約等に基づいた取引価額によっております。

2. 取引の内容欄における「オークション関連取引」については、出品手数料、成約手数料、落札手数料およびその他のオークション関連取引を記載しております。

3. 取引金額には消費税等を含めておらず、期末残高には消費税等を含めております。

( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	672.03円	717.96円
1株当たり当期純利益金額	95.59円	100.54円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	95.42円	100.35円

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	172,190	183,535
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	1,422	1,836
(うち新株予約権)	(364)	(423)
(うち非支配株主持分)	(1,058)	(1,412)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	170,767	181,698
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	254,105	253,075

2. 従持信託が所有する当社株式を、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めて計算しております。当該信託が所有する当社株式は、前連結会計年度255千株、当連結会計年度115千株です。

3. 1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額(百万円)	24,285	25,543
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(百万円)	24,285	25,543
普通株式の期中平均株式数(千株)	254,039	254,055
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	455	481
(うち新株予約権)	(455)	(481)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

4. 従持信託が所有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めて計算しております。当該信託が所有する当社株式の期中平均数は、前連結会計年度314千株、当連結会計年度186千株です。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は2019年2月12日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に関する事項について決議し、自己株式の取得を以下のとおり実施しております。

(1) 自己株式取得に関する取締役会の決議内容

自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行すると共に、資本効率の向上と株主還元の充実を図るものであります。

取得する株式の種類

当社普通株式

取得する株式の総数

5,000,000株(上限)

取得価額の総額

10,000百万円(上限)

取得する期間

2019年2月13日～2019年9月20日

取得の方法

市場取引

(2) 有価証券報告書提出日の属する月の前月末現在における取得状況(約定日基準)

取得した株式の総数

1,732,800株

株式の取得価額の総額

3,573百万円

取得期間

2019年4月1日～2019年5月31日

(3) 上記取締役会決議に基づき取得した自己株式の累計(約定日基準)

取得した株式の総数

2,907,900株

株式の取得価額の総額

5,932百万円

取得期間

2019年2月13日～2019年5月31日

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	220	397	0.3	-
1年以内に返済予定のリース債務	12	41	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	3,330	2,640	0.3	2020年～ 2027年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	7	33	-	2020年～ 2026年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	3,569	3,112	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
3. 1年以内に返済予定の長期借入金のうち、従持信託に係る借入金については、借入利息が同信託口より信託収益を原資として支払われるため「平均利率」については含めておりません。
4. 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	220	220	220	220
リース債務	5	6	7	8

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債および純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	19,987	38,842	58,339	79,908
税金等調整前四半期(当期)純利益金額(百万円)	9,606	18,403	27,556	38,330
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額(百万円)	6,438	12,333	18,476	25,543
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	25.33	48.53	72.69	100.54

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	25.33	23.19	24.16	27.83

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	28,980	41,014
オークション貸勘定	1, 2 14,343	1, 2 13,814
売掛金	2 253	2 304
商品	119	181
貯蔵品	81	84
前払費用	62	49
関係会社短期貸付金	1,500	1,500
その他	2 504	2 4,253
貸倒引当金	4	5
流動資産合計	45,840	61,198
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	3 32,027	3 30,284
構築物	2,380	2,080
機械及び装置	251	221
車両運搬具	86	106
工具、器具及び備品	3 2,159	3 1,729
土地	3 49,956	3 49,361
建設仮勘定	4	1,460
有形固定資産合計	86,866	85,245
<b>無形固定資産</b>		
借地権	139	139
ソフトウェア	1,111	1,045
その他	28	28
無形固定資産合計	1,280	1,213
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	547	431
関係会社株式	57,989	57,988
破産更生債権等	2	6
長期前払費用	113	82
繰延税金資産	1,029	1,051
再評価に係る繰延税金資産	2,455	2,455
保険積立金	58	59
投資不動産	7,761	7,700
その他	101	101
貸倒引当金	2	5
投資その他の資産合計	70,056	69,871
固定資産合計	158,203	156,330
資産合計	204,043	217,528

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
オークション借勘定	1, 2 18,669	1, 2 19,188
買掛金	108	2 138
1年内返済予定の長期借入金	-	177
未払金	2 2,311	2 3,700
未払費用	74	73
未払法人税等	5,710	6,407
預り金	2,072	1,946
賞与引当金	447	471
その他	84	81
流動負債合計	29,478	32,185
固定負債		
長期借入金	470	-
長期末払金	178	178
退職給付引当金	311	397
長期預り保証金	2 4,419	2 4,459
資産除去債務	275	270
固定負債合計	5,654	5,306
負債合計	35,133	37,491
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,881	18,881
資本剰余金		
資本準備金	4,583	4,583
その他資本剰余金	9,922	9,921
資本剰余金合計	14,506	14,504
利益剰余金		
利益準備金	370	370
その他利益剰余金		
特別償却準備金	124	82
繰越利益剰余金	187,522	200,795
利益剰余金合計	188,016	201,248
自己株式	47,365	49,448
株主資本合計	174,038	185,186
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	141	60
土地再評価差額金	5,633	5,633
評価・換算差額等合計	5,492	5,573
新株予約権	364	423
純資産合計	168,910	180,036
負債純資産合計	204,043	217,528

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	1 54,087	1 56,909
売上原価	1 16,259	1 16,562
売上総利益	37,827	40,346
販売費及び一般管理費	1, 2 4,614	1, 2 4,591
営業利益	33,213	35,755
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1 269	1 319
不動産賃貸料	1 754	1 762
その他	1 167	1 161
営業外収益合計	1,192	1,243
営業外費用		
不動産賃貸原価	134	133
その他	1 5	11
営業外費用合計	140	144
経常利益	34,264	36,854
特別利益		
固定資産売却益	1 20	1 139
投資有価証券売却益	77	-
その他	-	1
特別利益合計	98	141
特別損失		
固定資産売却損	7	131
固定資産除却損	1 78	15
その他	5	13
特別損失合計	90	161
税引前当期純利益	34,272	36,834
法人税、住民税及び事業税	10,118	11,151
法人税等調整額	310	13
法人税等合計	10,428	11,164
当期純利益	23,843	25,669

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
						特別償却準備金	繰越利益剰余金			
当期首残高	18,881	4,583	9,921	14,504	370	165	175,577	176,112	47,602	161,896
当期変動額										
特別償却準備金の取崩						41	41	-		-
剰余金の配当							11,878	11,878		11,878
当期純利益							23,843	23,843		23,843
自己株式の取得									0	0
自己株式の処分			1	1					236	238
土地再評価差額金の取崩							61	61		61
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										-
当期変動額合計	-	-	1	1	-	41	11,945	11,903	236	12,142
当期末残高	18,881	4,583	9,922	14,506	370	124	187,522	188,016	47,365	174,038

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	46	5,694	5,648	306	156,555
当期変動額					
特別償却準備金の取崩					-
剰余金の配当					11,878
当期純利益					23,843
自己株式の取得					0
自己株式の処分					238
土地再評価差額金の取崩					61
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	94	61	155	57	213
当期変動額合計	94	61	155	57	12,355
当期末残高	141	5,633	5,492	364	168,910

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
						特別償却準備金	繰越利益剰余金			
当期首残高	18,881	4,583	9,922	14,506	370	124	187,522	188,016	47,365	174,038
当期変動額										
特別償却準備金の取崩						41	41	-		-
剰余金の配当							12,438	12,438		12,438
当期純利益							25,669	25,669		25,669
自己株式の取得									2,359	2,359
自己株式の処分			1	1					276	275
土地再評価差額金の取崩										-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)										-
当期変動額合計	-	-	1	1	-	41	13,273	13,231	2,082	11,147
当期末残高	18,881	4,583	9,921	14,504	370	82	200,795	201,248	49,448	185,186

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	141	5,633	5,492	364	168,910
当期変動額					
特別償却準備金の取崩					-
剰余金の配当					12,438
当期純利益					25,669
自己株式の取得					2,359
自己株式の処分					275
土地再評価差額金の取崩					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	80	-	80	59	21
当期変動額合計	80	-	80	59	11,126
当期末残高	60	5,633	5,573	423	180,036

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準および評価方法

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

子会社株式および関連会社株式

移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

(2) たな卸資産の評価基準および評価方法

商品

移動平均法に基づく原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

ただし、車両については個別法に基づく原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯蔵品

最終仕入原価法に基づく原価法

ただし、車両については個別法に基づく原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産および投資不動産

定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)ならびに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法によっております。

(2) 無形固定資産(ソフトウェア)

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、以下の方法により計上しております。

1) 一般債権

貸倒実績率法によっております。

2) 貸倒懸念債権および破産更生債権等

財務内容評価法によっております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支払いに備えるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

4. 収益の計上基準

売上高の計上は、実現主義の原則に従っており、オークション開催日をもって計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税および地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

その結果、前事業年度の貸借対照表において「流動資産」の「繰延税金資産」が454百万円減少し、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」が454百万円増加しております。

(追加情報)

信託型従業員持株インセンティブ・プランにおける会計処理

従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引については、連結財務諸表「注記事項(追加情報)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

1. オークション貸勘定およびオークション借勘定

オークション貸勘定およびオークション借勘定は、オークション業務に関連して発生する会員に対する債権および債務であり、その主なものは立替および預り車両代金、未収出品料収入、未収成約料収入および未収落札料収入であります。

なお、オークション貸勘定およびオークション借勘定残高は、事業年度末日とオークション開催日との関連によって増減いたします。

2. 関係会社に対する金銭債権および金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	329百万円	392百万円
短期金銭債務	1,133	1,058
長期金銭債務	18	18

3. 圧縮記帳額

国庫補助金等で取得した固定資産の圧縮記帳の適用に伴い、固定資産の取得価額から直接控除している圧縮記帳累計額は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
建物	10百万円	10百万円
工具、器具及び備品	3	3
土地	161	161

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	605百万円	838百万円
営業費用	2,493	2,640
営業取引以外の取引による取引高	633	681

2. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度48%、当事業年度48%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度52%、当事業年度52%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
販売促進費	695百万円	737百万円
貸倒引当金繰入額	3	5
従業員給料及び賞与	1,130	1,128
賞与引当金繰入額	153	155
退職給付費用	63	61
減価償却費	174	155
事業税	550	586

(有価証券関係)

子会社および関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式57,988百万円、関連会社株式 - 百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式57,988百万円、関連会社株式1百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 ( 2018年 3月31日 )	当事業年度 ( 2019年 3月31日 )
<b>繰延税金資産</b>		
賞与引当金損金算入限度超過額	135百万円	142百万円
未払事業税否認	278	311
未払金否認	38	38
株式報酬費用否認	110	128
減損損失否認	299	224
資産除去債務	83	82
退職給付引当金否認	94	120
その他	133	99
繰延税金資産合計	1,174	1,148
繰延税金負債との相殺	144	96
繰延税金資産の純額	1,029	1,051
<b>繰延税金負債</b>		
その他有価証券評価差額金	61	26
資産除去債務	20	17
特別償却準備金	54	36
その他	9	17
繰延税金負債合計	144	96
繰延税金資産との相殺	144	96
繰延税金負債の純額	-	-

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」の(重要な後発事象)をご参照  
ください。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額 または 償却累計額
有形固定 資産	建物	32,027	38	2	1,779	30,284	22,635
	構築物	2,380	7	0	307	2,080	9,610
	機械及び装置	251	-	-	29	221	215
	車両運搬具	86	68	3	44	106	227
	工具、器具及び備品	2,159	424	2	851	1,729	8,277
	土地	49,956 [ 8,129]	16	612	-	49,361 [ 8,129]	-
	建設仮勘定	4	1,456	0	-	1,460	-
	計	86,866	2,012	621	3,012	85,245	40,966
無形固定 資産	借地権	139	-	-	-	139	-
	ソフトウェア	1,111	329	-	396	1,045	2,795
	その他	28	-	-	-	28	-
	計	1,280	329	-	396	1,213	2,795
投資その他 の資産	投資不動産	7,761 [40]	-	-	60	7,700 [40]	1,089

(注) 土地および投資不動産の「当期首残高」および「当期末残高」の[ ]内は内書きで、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)により行った土地の再評価実施前の帳簿価額との差額であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	7	5	1	10
賞与引当金	447	471	447	471

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係わる手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.pronexus.co.jp/koukoku/4732/4732.html">http://www.pronexus.co.jp/koukoku/4732/4732.html</a>
株主に対する特典	株主優待制度を設けております。 100株以上499株以下 500円のクオ・カード1枚(年2回) 500株以上999株以下 2,000円分の三井住友VJAギフトカード(年2回) 1,000株以上9,999株以下 5,000円相当のグルメギフト(年2回) 10,000株以上 10,000円相当のグルメギフト(年2回)

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書およびその添付書類ならびに確認書  
事業年度（第38期）（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）2018年6月13日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書およびその添付書類  
2018年6月13日関東財務局長に提出
- (3) 四半期報告書および確認書  
（第39期第1四半期）（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）2018年8月10日関東財務局長に提出  
（第39期第2四半期）（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日）2018年11月13日関東財務局長に提出  
（第39期第3四半期）（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）2019年2月13日関東財務局長に提出
- (4) 臨時報告書  
2018年6月15日関東財務局長に提出  
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。
- (5) 自己株券買付状況報告書  
報告期間（自 2019年2月13日 至 2019年2月28日）2019年3月6日関東財務局長に提出  
報告期間（自 2019年3月1日 至 2019年3月31日）2019年4月3日関東財務局長に提出  
報告期間（自 2019年4月1日 至 2019年4月30日）2019年5月8日関東財務局長に提出  
報告期間（自 2019年5月1日 至 2019年5月31日）2019年6月7日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月18日

株式会社ユー・エス・エス

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岡野英生

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大橋敦司

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ユー・エス・エスの2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ユー・エス・エス及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ユー・エス・エスの2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社ユー・エス・エスが2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- ( ) 1 . 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が連結財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。
- 2 . X B R L データは監査の対象には含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

2019年6月18日

株式会社ユー・エス・エス

取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岡野英生

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大橋敦司

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ユー・エス・エスの2018年4月1日から2019年3月31日までの第39期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ユー・エス・エスの2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ( ) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれておりません。